

令和5年度 こども環境科教育課程(1年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授業形態	時間数
基礎科目	ホームルーム活動	演習	30
	自然体験活動	演習	30
	自然と環境	講義	30
	社会学	講義	30
領域及び保育内容の指導法に関する科目	健康論	演習	30
	人間関係論	演習	30
	環境論	演習	30
	言語論	講義	30
	音楽表現	演習	60
	造形表現	演習	60
	保育内容の指導法(健康)	演習	30
	保育内容の指導法(人間関係)	演習	30
	保育内容の指導法(環境)	演習	30
	保育内容の指導法(言葉)	演習	30
	保育内容の指導法(表現)	演習	30
教育の基礎的理解に関する科目	保育内容総論	演習	30
	教育原理	講義	30
	教職概論	講義	30
	教育社会学	講義	30
	発達心理学	講義	30
	教育心理学	講義	30
	特別の支援を必要とする幼児に対する理解	演習	30
保育の本質・目的に関する科目	幼児教育課程総論	講義	30
	保育原理	講義	30
	子ども家庭福祉	講義	30
	社会福祉概論	講義	30
	地域福祉論	講義	30
保育の対象の理解に関する科目	社会的養護Ⅰ	講義	30
	子ども家庭支援論	講義	30
	子ども家庭支援の心理学	講義	30
道徳・総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	子どもの保健	講義	30
	子どもの食と栄養	演習	60
	教育方法学	演習	30
	こども理解	演習	30
保育の内容・方法に関する科目	教育相談・育児相談	演習	30
	保育基礎演習	演習	60
	子どもの健康と安全	演習	30
	乳児保育Ⅰ	講義	30
	乳児保育Ⅱ	演習	30
	子育て支援	演習	30
	社会的養護Ⅱ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	30
	器楽演奏法Ⅰ	演習	60
	器楽演奏法Ⅱ	演習	60
	ムーブメント教育・療法	講義	30
	児童文化論	講義	30
	こどもの遊びと文化Ⅰ	演習	30
こどもの遊びと文化Ⅱ	演習	30	
教育実践に関する科目	幼稚園教育実習	実習	225
	教職実践演習(幼稚園)	演習	60
保育実践に関する科目	保育実習ⅠA	実習	90
	保育実習ⅠB	実習	90
	保育実習指導ⅠA	演習	30
	保育実習指導ⅠB	演習	30
	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	90
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	演習	30
	保育実践演習	演習	60
施行規則第66条の6	英語コミュニケーション	演習	30
	情報技術	演習	30
	体育講義	講義	15
	体育実技	実技	45
実務経験のある教員等による授業時数合計			240

令和5年度 こども環境科教育課程(2年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授業形態	時間数
基礎科目	ホームルーム活動	演習	30
	自然体験活動	演習	30
	自然と環境	講義	30
	社会学	講義	30
領域及び保育内容の指導法に関する科目	国語	講義	30
	音楽	演習	60
	図画工作	演習	60
	体育	演習	60
	生活	講義	30
	保育内容の指導法(健康)	演習	30
	保育内容の指導法(人間関係)	演習	30
	保育内容の指導法(環境)	演習	30
	保育内容の指導法(言葉)	演習	30
	保育内容の指導法(表現)	演習	30
	保育内容総論	演習	30
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	30
	教職概論	講義	30
	教育社会学	講義	30
	発達心理学	講義	30
	教育心理学	講義	30
	特別の支援を必要とする幼児に対する理解	演習	30
	多文化保育・教育論	講義	30
保育の本質・目的に関する科目	幼児教育課程総論	講義	30
	保育原理	講義	30
	子ども家庭福祉	講義	30
	社会福祉概論	講義	30
	地域福祉論	講義	30
保育の対象の理解に関する科目	社会的養護Ⅰ	講義	30
	子ども家庭支援論	講義	30
	子ども家庭支援の心理学	講義	30
道徳・総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	子どもの保健	講義	30
	子どもの食と栄養	演習	60
	教育方法学	演習	30
	こども理解	演習	30
保育の内容・方法に関する科目	教育相談・育児相談	演習	30
	保育基礎演習	演習	60
	子どもの健康と安全	演習	30
	乳児保育Ⅰ	講義	30
	乳児保育Ⅱ	演習	30
	子育て支援	演習	30
	社会的養護Ⅱ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	30
	保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	30
	器楽演奏法Ⅰ	演習	60
	器楽演奏法Ⅱ	演習	60
	ムーブメント教育・療法	講義	40
	児童文化論	講義	30
	こどもの遊びと文化Ⅰ	演習	30
こどもの遊びと文化Ⅱ	演習	30	
教育実践に関する科目	幼稚園教育実習	実習	225
	教職実践演習(幼稚園)	演習	60
保育実践に関する科目	保育実習ⅠA	実習	90
	保育実習ⅠB	実習	90
	保育実習指導ⅠA	演習	30
	保育実習指導ⅠB	演習	30
	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	90
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	演習	30
	保育実践演習	演習	60
施行規則第66条の6	英語コミュニケーション	演習	30
	情報技術	演習	30
	体育講義	講義	15
	体育実技	実技	45
実務経験のある教員等による授業時数合計			270

※ 青字・ゴシック体・網掛けの授業科目は、今年度開講する講義。
 ※ 時間数欄で、黄色網掛けの授業科目は、今年度開講する講義のうち実務経験のある教員等によるもの。

■ 成績評価について

成績は、科目の内容によりますが、筆記試験、実技試験、レポート、受講態度（学修意欲）、出席状況等を総合して100点満点で評価し、60点以上を合格として単位を認定しています。

評定と点数の関係は下記のとおりです。

秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満

なお、各科目の評価の合計点の平均（100点満点）を算出し、成績の分布状況を把握しています。

■ 卒業認定について

卒業に必要な単位数等の規定は、学則第11条に示されています。

卒業認定は、科目ごとの評価一覧表に基づき、「卒業・進級判定会議」において、各科目の単位の認定状況を確認し、協議の上、判定しています。

翌年度の認定の方針等については、年度末に職員会議等で協議の上、策定しています。

こども環境科 1年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動		演習	2	通年	赤神 正倫
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学校生活を過ごす。 クラス活動に主体的に参加し、リーダーシップをとる経験をする。 				
授業の概要	各種オリエンテーション、クラス活動を行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	はじめまして	16		
	2	教務ガイダンス	17		
	3	学校探検	18		
	4	マナー講座	19		
	5	性教育	20		
	6	クラス活動	21		
	7	クラス活動	22		
	8	クラス活動	23		
	9	クラス活動	24		
	10	クラス活動	25		
	11	クラス活動	26		
	12	クラス活動	27		
	13	クラス活動	28		
	14	クラス活動	29		
	15	クラス活動	30		
評価方法	平常の受講態度で評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
自然体験活動		演習	2	前期	赤神 正倫 氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに自然を案内するネイチャーゲームリーダーの資格を取得する。 自然にかかわる楽しさを体験し、自然体験を生かした保育を展開できる資質を養う。 				
授業の概要	シェアリングネイチャーの理念を学び、五感を使ったアクティビティを体験する。 また、アクティビティの指導計画、すなわちフィールドKYTを通して、ペア学生に自然との出会いを促すことを目的とした計画を作成し、実践する機会をもつ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション、ノーズ、動物交差点			
	2	フィールドビンゴ、木の鼓動、音いくつ、サウンドマップ			
	3	カモフラージュ、カメラゲーム、サイレントウォーク			
	4	ネイチャーゲームとは			
	5	ネイチャーゲームを支える理念			
	6	動物ジェスチャー、ハビタット、ごちそうはどこだ、裸足で歩こう			
	7	いねむりおじさん、ネイチャーゲームを支える理念			
	8	宝探し、森の色合わせ、森の美術館			
	9	ネイチャーゲームの実践法			
	10	指導実習計画			
	11	フィールド KYT、指導実習			
	12	折り紙カモフラージュ、マイクロハイク			
	13	はじめまして、季節からの招待状			
	14	フィールドポエム、振り返り			
15	自然の喜びを感じよう				
評価方法	平常の受講態度で評価する。				
テキスト	シェアリングネイチャー協会のテキストを使用				
参考文献					
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
自然と環境	講義・巡検	2	前期	大西 英一
授業の目標	○釧路湿原など、我が国第一級の自然環境背景にもつ本校において、環境を標榜する本学科で学ぶ将来の保育士として、必要な基礎知識を踏まえたうえで、やさしく自然を語れる技法を身につける。			
授業の概要	○釧路の自然の概要を知る。(火山・丘陵・湿原・湖沼・河川・海岸線) (多様な生物群・植物→動物たち) ○近辺のフィールドに出て、多様な生物群にふれ、保育士としての役割を考える。 ○リスクマネージメントを知る。			
授業計画	回	テーマ	学習内容	
	1	オリエンテーション	釧路まで延長される高速道路と周縁の自然	
	2	釧路の山と火山	釧路のカルデラは世界最大級の規模を持つ	
	3	釧路湿原は日本一	日本一の釧路湿原とは	
	4	近くの自然林を知る	俗称(ビオトープの森とは)森の構造と私たち	
	5	ビオトープのまとめ	まとめの発表。森の階層構造・森林浴	
	6	釧路の川と湖沼	母なる釧路川と特徴ある湖沼群	
	7	釧路のオアシス春採湖	春採湖は貴重な市民の財産。座学	
	8	春採湖の巡検	実際に「園児」たちと訪れる春採湖へ	
	9	〃	〃	
	10	春採湖のまとめ	まとめを「発表」しあう。武佐の森とは	
	11	武佐の森の巡検	実際に武佐の森へ	
	12	釧路の気象と諸現象	蓮葉氷や御神渡りなどの珍現象	
	13	釧路の温泉と国立公園	日本一と言われる(霧)と温泉の不思議	
	14	釧路の炭鉱は日本一	太平洋の海底炭を探ってみる	
	15	まとめ	保育士として釧路の自然を語れるか	
16	学科試験			
評価方法	学科試験(60%) レポート/発表(40%)			
テキスト	なし。毎回レジメをお渡しします			
参考文献	「国立公園シリーズ・釧路湿原国立公園」大西英一他 国立公園協会 2012刊 「春採湖」釧路市立博物館刊 「釧路の里山・武佐の森」大西英一編著 釧路短期大学刊 「たのしい釧路きのこウォッチング」大西英一著 2012刊 「釧路湿原 200 花選」大西英一編 くしろせんもん学校 2021 刊 他			
留意事項	○毎回配布するレジメは試験場に持参できますのでファイルして大切にしてください。 ○レポートは提出がないと欠席になります。 ○授業内容は前後、変更になることがあります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係論		演習	1	後期	久納 里香
授業の目標	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。				
授業の概要	領域「人間関係」の指導の基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス：授業の趣旨と一貫するテーマの重要性			
	2	現代社会環境と人間関係の特徴			
	3	現代の人間関係の特徴からみた保育施設の役割			
	4	対話力「こども会議」			
	5	話を聞くちから・話すちから			
	6	保育演習（子ども同士の関わり）			
	7	保育演習（子ども同士の関わり）			
	8	子どもの発達と他者との関係論的視点			
	9	保育演習（子どもと保育者との関わり）			
	10	保育演習（子どもと保育者との関わり）			
	11	レポート発表（グループワーク）			
	12	保育演習（子ども同士の関わり）			
	13	保育演習（子ども同士の関わり）			
	14	レポート発表（グループワーク）			
15	まとめ				
評価方法	受講態度、レポート、コミュニケーション能力を総合的に評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
環境論		演習	1	前期	倉賀野 志郎
授業の目標	【授業のテーマ及び到達目標】 領域「環境」の指導の基盤となる、乳幼児の働きかけに応じての「環境」と乳幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。				
授業の概要	【授業の概要】 広義の意味での乳幼児の働きかけに応じての「環境」の意義、乳幼児の思考・科学的概念の発達、標識・文字等、情報・施設との関わりの事象に関する興味、関心の発達を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	広義の意味での「環境」のとらえ方：乳幼児の働きかけに応じての環境像			
	2	働きかけ・働きかけられる手の果たす役割			
	3	可塑性を内包する脳と発達			
	4	乳幼児期・児童期の感覚・認知発達			
	5	人とのかかわりと言葉による伝えあいから環境をとらえる			
	6	食べる・寝ると環境			
	7	遊びを通じた環境とのかかわり			
	8	乳幼児ともとのかかわり①思考力の芽生えと豊かな感性			
	9	乳幼児と自然とのかかわり①身の回りの素材とものづくり			
	10	乳幼児ともとのかかわり②協同してのものづくり			
	11	乳幼児と自然とのかかわり②身の回りの生き物環境：タネに着目して			
	12	乳幼児と数量や図形、標識や文字とのかかわり			
	13	乳幼児の情報・施設等とのかかわり			
	14	領域「環境」から「生活」へ			
	15	まとめ			
16	テスト				
評価方法	【学生に対する評価】 平常の受講態度とテストで評価				
テキスト	○平成 29 年度・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説 ○氏原・倉賀野：幼児の「環境」研究グループ：幼児教育と「子ども環境」：豊かな発達と保育の環境・明石書店				
参考文献					
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
言語論	講義	1	前期	武藤 篤訓
授業の目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的事項を身につける。具体的には、人間の証ともいえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。			
授業の概要	本講義ではまず、言葉とは何かを考え、「聞く」「書く(かな・漢字)」「読む」「話し合う」「手紙」「辞書の引き方」「読書や新聞の活用」などの演習を行い、後半では、その演習を踏まえた上で、幼児に対する言語の指導のありかたについて考える。			
授業計画	回	学習内容・テーマ		
	1	人間にとって「言葉」とは何か		
	2	人間にとっての言葉の意義と機能		
	3	子どもは、言葉をどのように獲得するのか？		
	4	子どもの言葉の発達過程 誕生から、書き言葉 習得まで		
	5	「言葉に対する感覚」とは何か？		
	6	言葉の美しさ、楽しさを感じよう		
	7	言葉に対する感覚を豊かにするとは？		
	8	書き言葉への導入		
	9	言葉遊びのいろいろと保育の取り入れ方		
	10	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは？		
	11	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際		
	12	子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えよう		
	13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か？		
	14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際		
	15	言葉の遅れをもつ子どもと言葉		
16	試験			
評価方法	レポート 50%、試験 50%			
テキスト	中央法規 保育内容指導法 言葉と指導法 齋藤政子			
参考文献				
留意事項	常に実際の保育のイメージを持ちながら受講してください。 演習も行いますので、課題は確実に提出してください。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
音楽表現		演習	2	通年	川崎 晶子
授業の目標	1. 音楽に興味を持ち歌い演奏する事により、音楽表現の多様性を理解する。 2. 音楽表現を通して、音楽の楽しさを子どもと共感できる技術を身につける。 3. 保育、幼児の表現活動で、必要とされる基礎知識を身につける。				
授業の概要	表現の指導に必要な音楽の基礎知識を学び、実践するための能力を身に付け、子どもの豊かな感性を育てるための表現遊びを学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション (表現のねらい、内容の理解)	16	調の変化について	
	2	音楽基礎知識の学習 (楽典)	17	表現あそび (手遊び)	
	3	歌唱表現 (発声について)	18	表現あそび (わらべ歌)	
	4	歌唱表現 (子どものうた)	19	表現あそび (身体表現活動)	
	5	音楽基礎知識の学習 (楽典)	20	楽器活動 (ミュージックベル)	
	6	歌唱表現 (生活のうた)	21	楽器活動 (器楽アンサンブル)	
	7	歌唱表現 (季節のうた)	22	音楽基礎知識の学習 (楽典)	
	8	リズム表現活動	23	身体表現活動 (ボディパーカッション)	
	9	楽器遊び	24	身体表現活動 (リトミック)	
	10	楽器遊び (アンサンブル)	25	歌唱表現 (合唱)	
	11	音楽の基礎知識の学習 (楽典)	26	音楽基礎知識の学習 (楽典)	
	12	歌唱活動 (行事のうた)	27	簡易伴奏の基礎	
	13	歌遊びの歌唱表現	28	創作活動 (絵本と音)	
	14	拍子の変化について	29	創作活動 (絵本と音楽)	
	15	和音のしくみ	30	まとめ 振り返り	
評価方法	出席状況、演習の取り組み、試験を総合的に判断				
テキスト	「子どものための音楽表現技術」萌文書林 「こどものうた 200」チャイルド本社				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
留意事項	学生の音楽経験や音楽に対する理解度・能力を考慮しながら進める。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
造形表現		演習	2	通年	福士 隆敏
授業の目標	保育者としての感性、創造性を養い、幼児の造形表現を支える技能を身につける。				
授業の概要	不作為のものから感じ取る。不作為のものに作為を加える。制作過程を段階的に区切り、ステップごとに行動の物語を作り展開して行く。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、表現について	16	染色1：草木染：自然の色、模様	
	2	マスコットキャラクター制作1：発想、構図	17	染色2：絞り染め：方法の工夫	
	3	マスコットキャラクター制作2：まとめ、彩色	18	プラ板創作1：デザイン	
	4	マスコットキャラクター制作3：スケッチブック表紙	19	プラ板創作2：焼成、組み立て	
	5	マスコットキャラクター制作4：スケッチブック表紙仕上げ	20	共同制作（季節の行事）1：デザイン	
	6	不作為技法1：デカルコマニー、ドロッピング、スパッタリング、フロッタージュ等	21	共同制作（季節の行事）2：パーツ制作	
	7	不作為技法2：マーブリング	22	共同制作（季節の行事）3：組み立て	
	8	ピクトグラム1：幼児に伝える	23	共同制作（季節の行事）4：仕上げ補強、プレゼンテーション	
	9	ピクトグラム2：不作為技法作品による貼り絵	24	カード、ボードゲーム創作1：ルール決め	
	10	不作為技法3：ポーリングアート1：自然な流れ模様	25	カード、ボードゲーム創作2：カード、ボード、コマ作り	
	11	不作為技法4：ポーリングアート2：技法工夫	26	カード、ボードゲーム創作3：引き続き作業、彩色、仕上げ	
	12	ポップアップカード作成：基本と応用	27	紙芝居1：ストーリー絵コンテ	
	13	絵本の制作1：テーマ、ストーリー	28	紙芝居2：用紙作画、彩色	
	14	絵本の制作2：作画、セリフ、解説	29	紙芝居3：上演	
15	絵本の読み聞かせ	30	造形表現のまとめ、プレゼンテーション		
評価方法	(試験やレポートの評価基準など) 提出物：80%、受講態度：20%				
テキスト					
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法 (環境)		演習	2	後期	氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもって関わるように、領域「環境」の指導のために必要な知識・技術を身に付ける。その際、「身近なものに関わり感性が育つ」との接続や小学校「生活」との接続を意識する。 ・幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。 				
授業の概要	幼稚園・保育所保育の基本としての環境を通じた教育・保育から出発し、身近な環境として物、自然、動物に受講生自身が関わる体験をし、子どもがそれらに好奇心や探求心をもって関わるために必要な環境設定を考える。体験を踏まえて保育の指導計画を立て、実践し、振り返る。具体的には動物園の見学、お店屋さんごっこを実践する。また、身近な施設として遊学館を見学する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	環境を通じた教育・保育と幼児教育において育みたい資質・能力			
	2	領域「環境」のねらい・内容			
	3	動物の生命の尊さに気づける場所としての動物園			
	4	釧路市動物園見学①			
	5	釧路市動物園見学②			
	6	自然の美しさ、不思議さに気付く保育①			
	7	自然の美しさ、不思議さに気付く保育②			
	8	物とのかかわり			
	9	数量・図形、文字などへの関心を養う			
	10	お店屋さんごっこ指導計画			
	11	お店屋さんごっこ準備			
	12	お店屋さんごっこ実践			
	13	遊学館見学①			
	14	遊学館見学②			
	15	振り返り・まとめ			
16	期末試験				
評価方法	ワークシート 10%、お店屋さんごっこ実践 20%、動物園レポート 10% 遊学館レポート 10%、期末試験 50%				
テキスト	使用しない				
参考文献	平成29年告示幼稚園教育要領、平成29年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領、平成29年告示保育所保育指針				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法 (言葉)		演習	2	後期	森田 有紀子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。 ・乳幼児の言葉の発達過程、言葉の意義や機能を学び、言葉の楽しさや美しさを伝える実践的な遊びや、児童文化財を保育構想に生かすことができる。 				
授業の概要	<p>言葉の意義や機能を理解し、言葉の発達過程を様々な視点から捉えながら保育へ生かす指導法を学ぶ。</p> <p>子どもが言葉による表現の楽しさを深められるように、言葉遊びや絵本、紙芝居など様々な児童文化財の読み聞かせ方・演じ方を習得し活用できるようにする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	「言葉」とは何か	16	期末試験	
	2	言葉の機能と発達過程	17		
	3	言葉の発達過程と保育者の関わり	18		
	4	絵と言葉の豊かな世界 (絵本とは)	19		
	5	絵と言葉の豊かな世界 (読み聞かせ方)	20		
	6	絵本読み聞かせ (実践)	21		
	7	絵と言葉の豊かな世界 (紙芝居とは)	22		
	8	絵と言葉の豊かな世界 (演じ方)	23		
	9	観客参加型紙芝居 (実践)	24		
	10	物語完結型紙芝居 (実践)	25		
	11	想像や言葉の世界を楽しむ (素話とは)	26		
	12	素話 (実践)	27		
	13	想像や言葉の世界を楽しむ (言葉遊び)	28		
	14	文字の必要性に気づく (書く遊び)	29		
	15	小学校 (国語) とのつながり	30		
評価方法	受講態度、出席状況、演習の取り組み、レポート、試験を総合的に判断。				
テキスト	保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』同文書院・プリント				
参考文献					
留意事項	プリントを閉じるためのファイルを準備しておくこと。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容総論		演習	2	前期	羽鳥 美乃
授業の目標	幼稚園、保育所、認定こども園における保育者としての役割を知り自分なりの教育、保育観を持つ				
授業の概要	教科書・演習・保育・教育実習を通し児の姿をイメージしながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の内容を理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	幼稚園・保育所・認定こども園とは			
	2	養護・3つの視点・5領域について			
	3	「健康」について			
	4	「言葉」について			
	5	「人間関係」について			
	6	「環境」について			
	7	「表現」について			
	8	「10の姿」について			
	9	「指導案」を作成するにあたって			
	10	「保育の振り返り」について			
	11	「保育の振り返り」について			
	12	小学校との連携について			
	13	保護者とのコミュニケーションのとり方について			
	14	保育者の一日の動き、保育者として社会人として			
15	まとめ 自分の教育・保育観				
評価方法	課題、提出物、受講態度				
テキスト	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育原理		講義	2	前期	武藤 篤訓
授業の目標	教育の方法と技術(情報機器及び教材の活用を含む)ではこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技能を身につける。				
授業の概要	<p>一般目標</p> <p>(1)教育の方法論 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>(2)教育の目的に即した指導技術を身につける。</p> <p>(3)情報機器を活用した効果的な授業や情報機器能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成。活用に関する基礎的な能力を身につける。</p> <p>本講義ではまず、基礎として保育の基本と保育方法、幼児理解と方法、環境の構成と保育の展開、一人一人に応じた指導、保育の質の評価、遊びの指導などの基礎的事項を学習する。保育の方法や幼児理解、実際の子どもの生活や遊び・行事・幼少連携などを取り上げ、次に現在の幼児教育のキーワードや課題、生活、行事、小学校との連携、指導形態を取り上げ、最後に情報機器を使った教材の作成と活用について講義する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育の基礎と保育方法			
	2	幼児理解とその方法			
	3	環境の構成と保育の展開			
	4	一人一人に応じた指導			
	5	保育の質と評価			
	6	遊びの指導			
	7	生活の指導			
	8	豊かな体験と園行事			
	9	小学校との連携			
	10	様々な指導体系			
	11	「主体的・対話的で深い学び」と教材研究			
	12	学び合い育ちあうクラスづくり			
	13	児童文化財と保育			
	14	情報機器を使った教材の作成と活用			
15	まとめと試験				
評価方法	課題 (60%) 定期試験 (40%)				
テキスト	ミネルヴァ書房「保育のための教育原理」				
参考文献	その都度紹介します。				
留意事項	常に実際の保育のイメージを持ちながら受講してください。演習も行いますので、課題は確実に提出してください。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達心理学		講義	2	前期	福岡 真理子
授業目標	1. 保育に携わる者に必要不可欠な子どもの発達の特長や発達過程を理解し、発達ならびに生活の連続性に配慮して保育をできるように、基本的な知識・技能を学び習得する。 2. 子ども一人ひとりの心身の状態を把握して発達の援助を行う意識付けを強くする。 3. アクティブラーニングによる他者とのコミュニケーション能力を培う。				
授業概要	誕生から老年期に至るまで様々な変化を経験する。生涯にわたるからだやこころ(精神)の変化を心理学の視点で理解をしていく。特に出生してから小学生までの子どもがどのように発達するかを深く知り、どのように関わることが必要かを習得する。講義による理解とともに自分たちで課題追究する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ガイダンス、発達心理学って何だろう			
	2	序章：発達って何だろう			
	3	第1章：誕生時からある不思議な能力【胎児期、新生児期】			
	4	第2章：コミュニケーションの基礎ができる【乳児期】			
	5	第3章：感覚からイメージの世界へ【幼児期Ⅰ】			
	6	発達ルポ：知っておきたい発達の障害			
	7	第4章：「わたし」と「あなた」の違いに気づく【幼児期Ⅱ】			
	8	第5章：思考力がつき、人間関係が発達する【児童期】			
	9	第6章：子どもと大人の間で揺れ動く【青年期】			
	10	発達ルポ：つまずきへのサポート			
	11	まとめ：「コラムとトピック」			
	12	第7章：変化し続けるこころとからだ【成人期以降】			
	13	まとめ：幼児教育と「子ども環境」			
	14	まとめ：乳幼児の発達でわかったこと			
	15	試験			
16	まとめと振り返り				
評価方法	提出物(毎回)30%、試験70%				
テキスト	史上最強図解 よくわかる発達心理学(ナツメ社) 林洋一監修 『幼児教育と「子ども環境」』(明石書店) 「子どものイヤイヤ」(実務教育出版)				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
特別の支援を必要とする幼児に対する理解		演習	2	前期	武藤 篤訓 阿部 美穂子
授業目標	(1)特別の支援を必要とする幼児に対する理解 (2)特別な支援を必要とする幼児の教育課程及び支援方法 (3)障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児の把握や支援				
授業概要	本講義ではまず、特別支援教育や障害について基本的な理解をした上で、発達障害をはじめとする多様な教育的ニーズの理解と支援を学び、多様な教育の場、個別の指導計画、個別の教育支援計画や関係機関、保護者との連携を学び、指導の留意点、遊びによる支援方法、発達と気になる行動、ICT機器の意義と活用等について学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	特別支援教育とインクルーシブ教育			
	2	障害児教育の歴史			
	3	障害の理解と支援 視覚・聴覚・肢体不自由			
	4	障害の理解と支援 知的障がい・精神障がい			
	5	障害の理解と支援 発達障がい			
	6	障害の理解と支援 言語障がい・情緒障がい			
	7	重複障害・医療保育			
	8	障害はないが、多様なニーズのある子どもの理解と支援			
	9	連続性のある多様な学びの場			
	10	関係機関や保護者との連携			
	11	個別支援計画とアセスメント			
	12	特別の支援を必要とする幼児の支援の要点			
	13	特別の支援を必要とする幼児の支援の実際①			
	14	特別の支援を必要とする幼児の支援の実際②			
	15	特別の支援を必要とする幼児の支援における、遊具・教材の活用～ICTを含む			
16	試験				
評価方法	試験 (40%)、課題 (30%)、特別の支援を必要とする幼児の支援の実際 (30%)				
テキスト	久保山 茂樹・小田 豊「障害児保育－障害のある子どもから考える教育・保育」光生館				
参考文献					
留意事項	演習も行いますので、課題は確実に提出してください。 15回で、多様なことを学びます。すべては理解できないかもしれませんが、分からない点は、質問票に記入してください。ボランティアなどで自分で学びを深めてください。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育原理		講義	2	前期	氏原 陽子
授業の目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. わが国における保育に関する法令及び制度について理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。				
授業の概要	保育という言葉、役割と責任から始まり、子ども家庭福祉及び子ども・子育て支援新制度等保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本を解説する。その際、保育の現状と課題についても考察する。最後に、保育の歴史と思想を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育という言葉、役割と責任			
	2	保育の基盤としての子ども観			
	3	子どもの最善の利益と保育			
	4	子ども家庭福祉と保育			
	5	児童福祉法における保育の位置付け			
	6	子ども・子育て新制度における保育の課題			
	7	保育の実施体系			
	8	保育の目標			
	9	保育の内容			
	10	子どもの理解に基づく保育の計画・実践・記録・改善			
	11	西洋における保育の歴史と思想			
	12	日本における保育の歴史			
	13	倉橋惣三に学ぶ保育			
	14	保育の場における子育て支援			
15	まとめ・期末試験				
評価方法	確認テスト (30%)、小レポート (20%)、期末試験 (50%)				
テキスト	柴崎正行『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社				
参考文献	保育所保育指針解説				
留意事項	教育原理と関連させて学習すること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭福祉		講義	2	後期	日置 真世
授業の目標	①権利主体としての「子ども」理解する ②今の日本における子どもや子育てを取り巻く環境について理解する の2点を実体験や具体的なイメージをもって理解することで、子育てを親だけに押し付けることなく、社会全体で子どもの最善に利益を考える仕組みやその担い手としての自覚や期待される考え方や行動について自分の問題として考え、行動できるようになることを目標とします。				
授業の概要	集中講義のメリットを生かし、グループワークやゲストによる経験談などできるだけ子ども家庭福祉についてリアリティを感じる話題や教材を使い、それについて議論したりします。ときどき、体験的に学んだことをテキストや資料で確認します。子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台(身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど)を養っていきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション 子どもとは?	16		
	2	子どもの権利について①	17		
	3	子どもの権利について②	18		
	4	子どもの権利について③	19		
	5	権利主体としての子どもをめぐる法制度	20		
	6	子育て環境について知る(経験談など)	21		
	7	子育て環境について知る(経験談など)	22		
	8	子育て環境について知る(経験談など)	23		
	9	子育て環境について考える(まとめ)	24		
	10	児童福祉施設やサービスの理解	25		
	11	子ども家庭福祉をつくる(調査や議論)	26		
	12	子ども家庭福祉をつくる(調査や議論)	27		
	13	子ども家庭福祉をつくる(発表、共有)	28		
	14	これまでの講義で学んだことのまとめ	29		
15	試験の振り返り	30			
評価方法	試験(持ち込み可能)にて評価 提出物と授業態度等も考慮				
テキスト	子どもと家庭の福祉を学ぶ(ななみ書房)				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会福祉概論		講義	2	前期	日置 真世
授業の目標	社会福祉に関する基礎知識を確認しながら、自分たちの生活の中から福祉の問題を感じたり、捉えなおしたり、考えたりすることで、福祉が特別な人のためのものではなく、誰にとっても身近な存在であるという視点を身につけ、一人ひとりの「生活の質」を考えるきっかけをつくります。最終的には「福祉とは何か?」という問いに対して一人ひとりが自分の言葉や自分の経験から説明できるようになることを目標とします。				
授業の概要	集中講義のメリットを生かし、グループワークやゲストによる経験談などできるだけ社会福祉についてリアリティを感じる話題や教材を使い、それについて議論したりします。 ときどき、体験的に学んだことをテキストや資料で確認します。社会福祉に関する基礎的な知識を得ると同時に、理解するための土台(身近なことを自分のこととして、考える、想像する、人の話を聞くなど)を養っていきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、福祉とは何か?①	16		
	2	福祉とは何か?②	17		
	3	身近な福祉を知る(経験談など)	18		
	4	身近な福祉を知る(経験談など)	19		
	5	福祉制度の概要と理念(全体像)	20		
	6	生活保護制度について	21		
	7	「他の者との平等」を考える	22		
	8	映画から福祉を考える①	23		
	9	映画から福祉を考える②	24		
	10	福祉関連法制度やサービスの理解	25		
	11	身近な福祉をつくる(調査や議論)	26		
	12	身近な福祉をつくる(調査や議論)	27		
	13	身近な福祉をつくる(発表、共有)	28		
	14	これまでの講義で学んだことのまとめ	29		
15	試験の振り返り	30			
評価方法	試験(持ち込み可能)にて評価 提出物と授業態度等も考慮				
テキスト	生活事例からはじめる 新版 社会福祉(青踏社)				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会的養護 I		講義	2	前期	豊島 節子
授業の目標	<p>誰もが、かけがえのない存在である子どもが健やかに育つことを願っている。しかし今日、児童虐待の増加など、子どもの問題は深刻化しており、それに伴い児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもも増えている。何らかの事情で安全かつ安心できる家庭環境を奪われた子どもは国が保障する特別の保護および援助を受ける権利を有している。そのために国が整備した特別の保護および援助体制が社会的養護である。その理念、制度、方法(実践)など基本的な内容について理解する。</p>				
授業の概要	<p>基本的にはテキストに沿いながら学習するが、子どもに関わる事件や事故等の情報があった場合には、できるだけ共有し、本質的な理解に繋げていく。また映像教材なども利用しながら、並行して社会的養護の実践をイメージできるようにする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念		16	
	2	社会的養護の歴史の変遷		17	
	3	子どもの人権擁護と社会的養護		18	
	4	社会的養護の基本原則		19	
	5	社会的養護における保育士の倫理と責務		20	
	6	社会的養護の制度と法体系		21	
	7	社会的養護のしくみと実施体系		22	
	8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		23	
	9	社会的養護の対象と支援のあり方		24	
	10	家庭養護と施設養護		25	
	11	社会的養護にかかわる専門職		26	
	12	社会的養護に関する社会的状況		27	
	13	施設等の運営管理の現状と課題		28	
	14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題		29	
	15	社会的養護と地域福祉の現状と課題		30	
評価方法	筆記試験、受講態度、提出物等総合的に評価				
テキスト	中央法規 基本保育シリーズ6 社会的養護 I				
参考文献	福祉小六法				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの保健		講義	2	後期	長谷 由香
授業の目標	現代社会における子どもの健康の現状を理解し、保育に必要な知識を身につけることができる。 保育における子どもの健康管理について必要な知識・対応方法を学び、興味・関心をもって実践に向かうことができる。				
授業の概要	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深めていってほしいと思います。講義では、グループワークで事例検討する機会を持ち、お互いの意見交換を行い、実践につながる知識の習得を目指していきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	こどもの保健とは・オリエンテーション			
	2	保護者との情報共有と家族の支援			
	3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題			
	4	地域における保健活動と子ども虐待防止			
	5	子どもの発育・発達と運動機能の発達			
	6	子どもの発育・発達と生活習慣			
	7	子どもの生理機能の発達と生活習慣			
	8	子どもの身体・運動機能の発達			
	9	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握			
	10	子どもの病気①感染症			
	11	子どもの病気②慢性疾患			
	12	子どもの病気③事故・ケガへの対応、急性疾患			
	13	子どもの病気④先天性疾患			
	14	子どもの健康管理と適切な対応			
15	まとめ・レポート課題の説明				
評価方法	レポート課題 (50%) 講義後振り返りレポート (25%) 授業参加 (25%)				
テキスト	「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト (治療と診断社)」				
参考文献	「子どもの保健ハンドブック (萌文書林)」				
留意事項	実習時期と合わせ講義内容の入れ替えあり				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの食と栄養		演習	2	後期	佐藤 あゆ美
授業目標	1. 乳幼児が、心身ともに健やかな発育・発達をするための栄養と食生活全般に関する基礎知識と、現場での実践法を、合わせて習得する。 2. 離乳食、幼児食、栄養バランスと料理などについて、調理実習を通して、一人一人が体験する。 3. 「食を営む力」は、子どもだけでなく、保育者自身の生活の質を左右する重要事項であり、社会人としての自覚を養う上でも、自分事として食の問題を捉える。				
授業概要	・講義の基本は、前年度に準ずる。 ・本年度より、調理実習①②③の3回とし、いずれも衛生管理を厳重に行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション		16	〈小児期の病気と食事、アレルギー〉
	2	栄養に関する基礎知識 1		17	調理実習②
	3	栄養に関する基礎知識 2		18	〈乳幼児期に多い食物アレルギーに対応する調理〉
	4	栄養バランスのとれた食事とは		19	保育所における食育
	5	食事バランスガイド		20	衛生管理と食中毒
	6	私の食事バランスは？		21	調理実習③
	7	子どもの発育、発達と食生活 1		22	〈災害時に役立つパッキング〉
	8	〈胎児、妊娠期、乳汁期の栄養〉		23	保育所給食の献立作成の基本
	9	子どもの発育、発達と食生活 2		24	(調理実習班ごとに) 献立作成
	10	〈離乳期、幼児期①〉		25	食育活動のための指導案作成の基本
	11	〈幼児期②〉		26	クッキング保育用のカード作成
	12	調理実習に向けて～衛生管理ほか		27	クッキング保育用のカード作成
	13	調理実習①		28	食育だよりの原稿作成
	14	〈大人ごはんと一緒に作る離乳食〉		29	総復習①
	15	特別な配慮を要する食と栄養～		30	総復習②
評価方法	受講態度、レポート、筆記試験の総合判定				
テキスト	『子どもの食と栄養』監修 高内正子 保育出版社				
参考文献	日本人の食事摂取基準 2020年版 (厚生労働省) ほか				
留意事項					

※実務経験のある教員 (栄養士、フードスペシャリスト資格、調理師/レストラン経営)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こども理解		演習	2	後期	伊藤 眞理
授業目標	<p>子どもを理解する視点、子どもを理解する方法を学び、それらを活かして事例分析できる。 子ども理解をもとに、子どもの指導についての計画を立てることができる。 子ども理解を通じて同僚と議論ができる。</p>				
授業概要	<p>子ども理解が必要とされる背景、子ども理解のための保育者の態度からスタートし、子どもを理解する視点、子どもを理解する方法について事例を通して学んだ後、事例分析を行う。 最後に、子ども理解にもとづいて指導計画を作成、修正し、その内容をグループワークで議論する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育の出発点としての子ども理解			
	2	子どもに対する共感的理解と子どもとのかかわり			
	3	子どもの発達にかかわる課題			
	4	子どもの生活や遊びを通じた学び			
	5	個と集団			
	6	気になる子どもの事例分析			
	7	こどもを観察・記録する方法			
	8	こどもを観察・記録するための視点			
	9	事例からみるこどもの観察・記録の実際			
	10	観察・記録からの子ども理解			
	11	子ども理解にもとづく指導計画の作成			
	12	指導計画の協議			
	13	保護者を理解するには			
	14	保護者との関りと連携			
	15	子ども理解のための自己理解			
	16	試験			
評価方法	<p>試験並びに、授業時に作成し提出するコメントペーパーの内容、事例分析の提出、指導案の作成および議論への参加を総合して評価する。</p>				
テキスト	<p>新しい保育講座③「子ども理解と援助」 高嶋景子・砂上史子編著 ミネルヴァ書房</p>				
参考文献	<p>子ども理解と保育実践－子どもを知る・自分を知る－萌文書林</p>				
留意事項	<p>授業中にディスカッションを行うことがあるので、積極的に参加すること。</p>				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育基礎演習		演習	2	通年	森田 有紀子 ・ 福士 隆敏
授業目標	<p>2年次の実習(1年1月も)に向けて、①使命感や責任感等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児期児童理解等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項。</p> <p>それぞれの項目について教員として必要最低限度の資質・能力が身につけていることの確認とともに、不足している知識や技能等の課題発見とその解決への取り組みの成果を確認する。これらの目的に向けて、幼稚園・保育園等を訪問や支援を実践的に学ぶ。</p>				
授業概要	<p>幼稚園・保育園訪問を中核として、幼児向けの企画等の準備を行う。フレンド系列の幼稚園を訪問。わかば・あいこく・みはらを中心にして実践する。土曜・日曜も入るので、参加者の調整も事前に行う。</p> <p>幼稚園・保育園の訪問等に関しては、コロナウィルスの関係で日程・内容等の変更あり。それらに向けての事前の学習に充てる可能性もある。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	全体ガイダンス：幼稚園と保育園、認定こども園等について		16	後期の基礎演習の大枠ガイダンス
	2	訪問に向けての名札づくり1		17	フレンド関係の発表会・打ち合わせ
	3	訪問に向けての名札づくり2		18	フレンド関係の発表会・準備支援1
	4	フレンド幼稚園等の訪問準備		19	フレンド関係の発表会・準備支援2
	5	フレンド関係の幼稚園等訪問1		20	フレンド幼稚園発表・当日の支援1
	6	訪問を踏まえての反省		21	フレンド幼稚園発表・当日の支援2
	7	フレンド関係の幼稚園等訪問2		22	訪問にあたり幼稚園保育園の特性について
	8	訪問を踏まえての反省と礼状について		23	幼稚園・保育園の訪問準備
	9	フレンド関係の幼稚園・運動会打ち合わせ		24	幼稚園・保育園の訪問1
	10	フレンド関係の幼稚園・運動会・準備1		25	幼稚園・保育園の訪問2
	11	フレンド関係の幼稚園・運動会・準備2		26	幼稚園・保育園の訪問等の反省とまとめ
	12	フレンド関係の幼稚園・運動会当日1		27	1月・保育園実習前半に向けての準備
	13	フレンド関係の幼稚園・運動会当日2		28	2年生に向けて指導案の検討発表1
	14	秋に向けて発表の各グループでの検討1		29	2年生に向けて指導案の検討発表2
15	秋に向けて発表の各グループでの検討2		30	まとめと、履修カルテの検討	
評価方法	事前・事後のレポートと全体評価				
テキスト	テキストは特にありません。プリントを適宜配布します。				
参考文献	保育所保育指針、幼児教育要領				
留意事項	幼稚園・保育園の訪問に合わせて、事前準備・事後のまとめ・礼状も実施				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
乳児保育 I		講義	2	後期	三宅 博子
授業目標	○乳児保育に関する基礎的な知識を習得し、「乳児保育Ⅱ」や「子育て支援」等への学習意欲を高めるとともに、保育所等における乳児を観察する目を養う。				
授業概要	○保育所保育指針改定で追加された3歳未満児の保育について保育の内容や運営体制に着目して学ぶ。また、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等、乳児保育の現状と課題、乳児保育における連携について学ぶ。 1. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷			
	2	乳児保育の役割と機能			
	3	乳児保育における養護及び教育			
	4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題			
	5	保育所における乳児保育の現状と課題			
	6	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)や家庭的保育における乳児保育の現状と課題			
	7	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場			
	8	3歳未満児の生活と環境			
	9	3歳未満児の遊びと環境			
	10	3歳以上児の保育に関する時期の保育			
	11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助や関わり、保育における配慮(1)			
	12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助や関わり、保育における配慮(2)			
	13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義			
	14	乳児保育における連携と協働①(職員間や保護者)			
	15	乳児保育における連携と協働②(自治体や地域の関係機関等)			
16	期末試験				
評価方法	平常の受講態度・期末試験により総合的に評価する				
テキスト	中央法規「新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ」監修 公益財団法人 児童育成協会				
参考文献	「乳児保育」一人ひとりが大切に育てられるために 吉本和子 エイデル研究所 「子どもへのまなざし」児童精神科医 佐々木正美 福音館書店				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
器楽演奏法 I		演習	2	通年	浅利 美穂 木下 太陽 川崎 晶子
授業目標	<p>幼児期に音楽に接し親しむことは幼児の心身の発達・成長にとって重要である。 また、幼児が初めて出会う音楽教育を充実したものとするためには、保育者の確かなピアノ演奏の技術が不可欠である。 そのため本科目ではピアノ演奏技術の習得を目標とする。</p>				
授業概要	<p>担当教員ごとにクラスに分かれ、個人レッスンの形で授業を進めていく。 『大学ピアノ教本』及び『こどものうた 200』を中心に、学生の能力に応じて曲を選択する。 進度に応じて弾き歌いも行う。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション クラスに分かれて曲を選択する		16	前期同様テキストを使用してレッスンを進めていく
	2	前回選択した曲を1週間練習し、担当教員のレッスンを受ける		17	〃
	3	〃		18	〃
	4	〃		19	〃
	5	〃		20	〃
	6	〃		21	〃
	7	〃		22	〃
	8	〃		23	〃
	9	〃		24	〃
	10	〃		25	〃
	11	〃		26	〃
	12	〃		27	〃
	13	〃		28	〃
	14	〃		29	〃
	15	レッスン及び発表		30	レッスン及び発表
評価方法	実技試験、出席状況、課題へ取り組む姿勢を総合して評価する。				
テキスト	『大学ピアノ教本』(教育芸術社)、『こどものうた 2000』(チャイルド本社)				
参考文献					
留意事項	ピアノを弾く上で支障が出ないよう、爪を短く切る。レッスン時には上靴を必ず着用する。毎日少しずつでも良いので練習に取り組むこと。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ムーブメント教育・療法		講義	2	後期	阿部 美穂子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達とその支援方法であるムーブメント教育・療法の基礎理論を理解する。 ・ムーブメント教育・療法を用いた、インクルーシブ保育の実践について理解する。 ・MEPA-Rを用いて、子どもの発達アセスメントができる。 ・発達段階に応じたムーブメント教育・療法に基づく発達支援プログラムの立案ができる。 ・子どもの実態に応じて、様々な遊具を活用することができる。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達とそれを支援するムーブメント教育・療法の基礎理論を学ぶ。 ・MEPA-Rを用いて、実際に幼児の発達アセスメントと分析を行う。 ・上記に基づき、グループに分かれて、ムーブメントプログラムを立案し、実践する。 ・実践を振り返り、プログラムの改善に取り組む。 ・様々な遊具の活用方法を考え、実践する。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	ムーブメント教育・療法と子どもの発達			
	2	インクルーシブ保育に生かすムーブメント教育・療法			
	3	ムーブメント遊具の活用理論			
	4	ムーブメント遊具の活用と保育環境構成 (1) —身体意識の獲得を中心に—			
	5	ムーブメント遊具の活用と保育環境構成 (2) —心理的諸機能の向上を中心に—			
	6	幼児の発達アセスメント MEPA-R の概要			
	7	MEPA-R の測定 (実習)			
	8	MEPA-R の結果分析			
	9	感覚運動期ムーブメントプログラム立案			
	10	感覚運動期ムーブメントプログラムの実践			
	11	知覚運動期ムーブメントプログラム立案			
	12	知覚運動期ムーブメントプログラムの実践			
	13	精神運動期ムーブメントプログラム立案			
	14	精神運動期ムーブメントプログラムの実践			
15	実践のまとめ				
評価方法	実践プログラムへの貢献、発表、レポート、出席状況を総合的に判断				
テキスト	「実践！ムーブメント教育・療法」小林芳文、阿部美穂子、日本ムーブメント教育・療法協会 クリエイツかもがわ 2023年				
参考文献	「MEPA-R ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント」小林 芳文 日本文化科学社 2005年				
留意事項	実践を含むので、動きやすい服装で授業にのぞむこと				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こどもの遊びと文化 I		演習	2	前期	武藤 篤訓 ・ 森田 有紀子
授業目標	<p>児童文化には大人が子どものためにより良い環境を用意することを目的とした児童文化と「住む」「着る」「食べる」といった生活文化と子ども自らが作り出す子ども文化といった3つの側面がある。本講義では、その子ども文化に焦点を当てて演習していく。最初に受講生に原風景・現体験を聞き出し、各自の子ども時代を思い出すことから始めたい。授業の目標としては、遊びの面白さを実感し、保育につなげていこうと思う気持ちを養うとともに、遊びを創造していく力を身につけることである。</p>				
授業の概要	<p>前半はさまざまな遊びを演習する。屋内での遊び、身体を使った遊び、つくる遊び、道具を使った遊びというジャンルで遊びを経験する。各回さまざまな遊びを紹介し、それを演習して考察を深めるサイクルで実施する。後半では、実際に森に行き遊びを体験し、実態に触れて考察を深めていくとともに、グループにて遊びを創り上げていく。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 原風景・原体験を語る 子どもの文化とは			
	2	身体を使った遊び①			
	3	身体を使った遊び②			
	4	身体を使った遊び③			
	5	身体を使った遊び④			
	6	道具を使つての遊び①			
	7	道具を使つての遊び②			
	8	道具を使つての遊び③			
	9	森で遊ぼう①			
	10	森で遊ぼう②			
	11	森で遊ぼう③			
	12	遊びを創る①			
	13	遊びを創る②			
	14	遊びの発表			
15	みんなで遊ぼう、遊びとは				
評価方法	授業内で行った遊びのリアクションペーパーによる				
テキスト	指定しない				
参考文献	大学図書出版「保育者のための児童文化」				
留意事項	「子ども文化」を体験的に直接触れて、演習していく。「子ども文化」は直接体験するものだから積極的に参加してほしい。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こどもの遊びと文化Ⅱ		演習	2	後期	武藤 篤訓 ・ 森田 有紀子
授業目標	子どもの生活を取り巻く、遊びや文化に関する知識や技術を総合的に習得して、保育に実践するための基本的な力を身につける。				
授業の概要	おもちゃや絵本などの実演で、保育の実践力を高めるとともに、複数での共同制作に取り組み、一人ではできない、人形劇などの大がかりな児童文化財を作り上げる課程を通して、作る力だけでなくマネジメントの必要性はもちろん、自分以外の工夫の視点のあり方、多様性も学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	伝承遊びと玩具		16	
	2	おもちゃを作って遊ぶ①		17	
	3	おもちゃを作って遊ぶ②		18	
	4	おもちゃを作って遊ぶ③		19	
	5	児童文化財について		20	
	6	劇を作る①		21	
	7	劇を作る②		22	
	8	劇を作る③		23	
	9	劇を作る④		24	
	10	劇を作る⑤		25	
	11	劇を作る⑥		26	
	12	上演に向けて		27	
	13	上演①		28	
	14	上演②		29	
15	講評と振り返り 児童文化財の保育への実践への展開		30		
評価方法	出席状況・課題作品・グループ課題作品・受講態度				
テキスト	必要な場合、その都度プリント等を配布します。				
参考文献					
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習 I A	実習	2	後期	赤神正倫・氏原陽子・川崎晶子 福士隆敏・武藤篤訓・森田有紀子
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内での学びを基礎として、保育所の役割と機能の理解、子どもの理解、保育内容の理解及び専門職としての保育士の理解を目的として学外で実習する。 ・日々の課題を明確にししながら、観察実習、参加実習日誌への記録及び考察を行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 個々の子どもの状態に応じた援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に基づく保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康管理と安全対策の理解 4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 			
評価方法	実習園からの評価 (60%)、学校の評価 (40%)			
テキスト	使用しない。			
参考文献	保育所保育指針解説			
留意事項				

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習 I B	実習	2	後期	赤神正倫・氏原陽子・川崎晶子 福士隆敏・武藤篤訓・森田有紀子
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者・利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 			
授業の概要	<p>観察を通して、施設の役割と機能を実際に理解するとともに、子ども・利用者と生活を共にし、保育者の援助や関わりを理解し、記録することからスタートする。保育者の援助や関わりを模倣し、子ども・利用者への理解を深め、指導の下、保育士の業務内容を体験する。リクレーションの計画・実践等も可能な限りさせていただく。職員間の役割分担・連携や職業倫理についても学ぶ。</p>			
授業計画	<p>○見学・参加実習 (実習1～2日頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割と機能 ・施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり ・子ども・利用者の観察とその記録 <p>○参加実習 (実習半ば頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応 ・個々の状態に応じた援助や関わり ・子ども・利用者の活動と環境 ・健康管理、安全対策の理解 ・保育士の業務内容 <p>○部分実習 (実習の終わり頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の理解と活用 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理 			
評価方法	実習施設からの評価 (60%)、学校の評価 (40%)			
テキスト	使用しない。			
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導 I A		演習	1	通年	氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I A (保育所等での実習) の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
授業の概要	<p>実習の意義・目的、内容からスタートし、日誌の書き方を解説する。2年次の保育実習指導Ⅱ、幼稚園教育実習と適宜合同し、実習の流れ、内容、計画・実践をより実践に近い形で学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	実習の意義、目的、内容	16		
	2	実習施設における子どもの人権	17		
	3	実習における観察 (1)	18		
	4	実習における観察 (2)	19		
	5	日誌の書き方 (1)	20		
	6	日誌の書き方 (2)	21		
	7	エピソード記録	22		
	8	実習施設調べ学習	23		
	9	実習における計画と実践 (1)	24		
	10	実習における計画と実践 (2)	25		
	11	実習の心構え、実習要綱、実習の課題	26		
	12	自己紹介グッズ作成	27		
	13	実習の振り返り	28		
	14	実習の総括と自己課題の明確化	29		
15	実習報告会	30			
評価方法	平常の受講態度、日誌、エピソード記録等提出物を総合的に判断して評価する。				
テキスト	小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社				
参考文献	保育所保育指針解説				
留意事項	開講日に注意すること。 授業を欠席しないようにすること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導 I B		演習	1	通年	武藤 篤訓
授業の目標	<p>・さまざまな困難を抱えた子どもや利用者、そしてその家族を理解するとともに、対応する技術を身につける。日常生活の援助・支援を核として、利用する人たちの養護や適切な生活習慣を身につけることを基本としながら自立するための援助を行う。そのため、本講義では、その概要を理解するとともに、援助技術を身につけ、実習を自分の課題をもって取り組めるようにする。</p>				
授業の概要	<p>毎回テーマを決めて、取り組む演習を通して、施設実習の目的と内容を理解するとともに、実習に行く施設の理解、利用児者の理解、保育士の支援など必要な知識・技術が身につけるとともに、実習に向かうための態度や記録、必要な書類について理解し円滑な実習が行えるようにする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・なぜ施設実習があるか			
	2	施設実習の意義・流れ			
	3	施設の役割～障がい系			
	4	施設の役割～養護系			
	5	施設見学 あゆみ (予定)			
	6	障害児・者の世界			
	7	安全・衛生管理・危機管理			
	8	実習日誌①			
	9	実習日誌②			
	10	実習日誌③			
	11	実習課題・実習要綱・必要書類			
	12	マナー・心構え・守秘義務			
	13	振り返り①討議			
	14	振り返り②報告書作成、発表準備			
15	発表				
評価方法	課題・提出物・小テスト				
テキスト	田中利則 編著 事例を通して学びを深める「施設実習ガイド」ミネルヴァ書房				
参考文献	その都度紹介				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の実習評価の伝達と指導は課外に行います。自己評価票と日誌を持参して担当教員から指導を受けてください。実習は健康管理に十分留意し、報告・連絡・相談を徹底してください。 ・保育実習 I B (施設実習) は幼稚園・保育所実習と異なり、利用児者の生活する場にて行う実習ですから、特に利用児者の人権を尊重し、守秘義務を守ってください。 ・変則的に開講しますが、一回ごとにテーマが違います。欠席をしないようにしてください。 ・施設見学・ボランティアも取り組んでください。 ・書類の提出は期限を守ってください。 				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
英語コミュニケーション		演習	2	前期	カネフラー クリストファー Knoepfler, Christopher
授業目標	<p>(1) 身近な話題について簡単なやり取りや発表をすることができる。</p> <p>(2) 英語の発音・リズムの特徴を意識し、話したり、歌ったりすることができる。</p> <p>(3) 幼い児童に対して、簡単な英語活動ができる。</p>				
授業概要	<p>この授業は日常的な話題について話したり、発表したりする活動を通して、オーラルコミュニケーションスキルを図ります。及び英語活動の実践を通して、若い児童に対して英語活動を行う際に必要なスキルを図ります。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション、スモールトーク	16		
	2	日常生活1 (interests and hobbies)	17		
	3	日常生活2 (daily routine)	18		
	4	音楽1 (音楽を通して英語を学ぼう)	19		
	5	音楽2 (music that you like)	20		
	6	音楽3 (artist/song presentations)	21		
	7	音楽4 (英語のリズム・抑揚の特徴)	22		
	8	観光1 (places in Kushiro)	23		
	9	観光2 (recommendations)	24		
	10	学校生活1 (life at school)	25		
	11	学校生活2 (memories from school)	26		
	12	クラスルーム英語1 (絵本の読み聞かせ)	27		
	13	クラスルーム英語2 (簡単な指示)	28		
	14	クラスルーム英語3 (children's songs)	29		
	15	クラスルーム英語4 (simple games)	30		
評価方法	課題 (30%)、授業への参加 (20%)、ファイナルテスト (50%)				
テキスト	プリント等を配布します。				
参考文献					
留意事項	欠席した場合は、課題や次回の授業に必要な準備等を各自確認すること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
情報技術		演習	2	前期	赤神 正倫
授業目標	近年の情報技術の進展はめざましく、パソコンは日常生活に必要な不可欠なツールとなっている。本講義では、情報技術についての基本的な知識・技術を身に付けることを目的とする。				
授業概要	パソコン操作の基本から始まり、文書作成、表計算の基礎、パワーポイントによるプレゼンテーションの基礎を習得、作成したデータの保管・共有・運用ができるように演習を行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	アンケートおよびガイダンス (機器の確認)			
	2	パソコンの基礎 (開始画面やフォルダ、文字など)			
	3	パソコンの基礎 (ログオン、アプリケーションの使用・終了)			
	4	パソコン操作 (ファイル保存・種類・ファイルの共有等)			
	5	パソコン操作 (文字の入力とマウス操作による描画)			
	6	文書作成 (ワードの操作、書式設定等)			
	7	文書作成 (ファイル読み込み、編集保存)			
	8	表計算 (エクセル操作・表作成・計算式)			
	9	表計算 (エクセル操作・VLOOK)			
	10	エクセル課題演習①			
	11	エクセル課題演習②			
	12	パワーポイントの基礎・スライド作成			
	13	パワーポイントの基礎・スライド作成			
	14	パワーポイントの基礎・スライド作成			
	15	パワーポイントの基礎・発表			
評価方法	出席状況・課題提出・プレゼンテーション課題による総合的に評価				
テキスト	必要な場合、その都度プリント等を配布				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
体育講義		講義	1	前期	赤神 正倫
授業の目標	<p>○スポーツを通じて情操を深めると共に、友愛と敬愛の心を育み、生涯にわたって健康な生活を送るための素地を培う。</p> <p>○体育・スポーツの歴史や文化に触れ、多様なスポーツや体育的な遊びを体験したり、オリンピックの歴史をさかのぼるなど歴史的・文化的観点から体育・スポーツの特性をとらえ、その楽しさを味わう。</p>				
授業の概要	<p>○身体のしくみ、運動のしくみについて学び、健康で明るい生活を送る上で、体育・スポーツの効果を知り、生涯にわたってスポーツに親しむ素地を養う。</p> <p>○運動のしくみや基礎的技能に対する理解を深めると共に楽しさを味わう。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	・オリエンテーション 健康と運動	16		
	2	・スポーツの起源と特性について	17		
	3	・現代のスポーツの捉え方 運動効果	18		
	4	身体のしくみ ・支える、動く ・コントロール	19		
	5	身体のしくみ ・コントロール ・調整	20		
	6	運動のしくみ ①～⑤	21		
	7	・実習	22		
	8	・幼児体育とあそび	23		
	9		24		
	10		25		
	11		26		
	12		27		
	13		28		
	14		29		
15		30			
評価方法	出席状況および活動状況を総合的に評価する。				
テキスト					
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
体育実技		実技	1	後期	赤神 正倫
授業の目標	<p>○体育・スポーツの歴史や文化に触れ、歴史的・文化的観点から体育・スポーツの特性をとらえ、その楽しさを味わう。</p> <p>○スポーツを通じて情操を深めると共に、友愛と敬愛の心を育み、生涯にわたって健康で明るい生活を送るための素地を養う。</p>				
授業の概要	<p>○「身体のしくみ」や「運動のしくみ」に対する理解を深め、ケガや事故に気を付けて安全に運動できる環境づくりを心がけ、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。</p> <p>○体ほぐしの運動や自分で出来る体幹トレーニングを体験し、実際に動く体づくりについて考え日常生活に取り入れる意欲を高める。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	・オリエンテーション 集団で行動しよう・集団あそび	16	・実習	
	2	・幼児体育とあそび 実習	17	・実習	
	3	・用具を用いたあそび	18	・発表 ふりかえり	
	4	・実習	19	・冬の運動① スケート	
	5	・実習	20	・実習	
	6	・実習	21	・地域スポーツ 長ぐつアイスホッケー	
	7	・幼児体育 体位力作り	22	・実習	
	8	・幼児体育遊びと体力まとめ	23	・実習	
	9	・ネット型スポーツ バレーボール	24		
	10	・実習	25		
	11	・実習	26		
	12	・ゴール型スポーツ バスケットボール アルティメット	27		
	13	・ゴール型スポーツ バスケットボール アルティメット	28		
	14	・実習	29		
	15	・遊戯づくり	30		
評価方法	出席状況および活動状況を総合的に評価する。				
テキスト	必要に応じてプリント等の配布				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
日本国憲法		講義	2	後期	岩澤 哲
授業の目標	憲法や人権をめぐる問題を正しく理解し、自分の意見をもてるようになる。				
授業の概要	日本国憲法について、できるだけ親しみやすい話題をとりあげて概説します。子どもの「教育を受ける権利」など、子どもに関するテーマも広く扱う予定です。授業の後半では、憲法とのかかわりを意識しながら、私たちの日常生活にかかわる法制度について理解を深めていきます。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	はじめに		16	
	2	憲法とはどのような法か		17	
	3	憲法と私たちの関係 (法の下での平等など)		18	
	4	憲法と私たちの関係 (精神的自由など)		19	
	5	憲法と私たちの関係 (経済的自由など)		20	
	6	憲法と私たちの関係 (社会権など)		21	
	7	憲法と私たちの関係 (国の統治の仕組み)		22	
	8	家族生活と法 (親族の関係)		23	
	9	家族生活と法 (婚姻の関係)		24	
	10	家族生活と法 (親子の関係)		25	
	11	家族生活と法 (親権について)		26	
	12	家族生活と法 (相続と平等)		27	
	13	犯罪と法		28	
	14	紛争解決と法		29	
	15	まとめ		30	
評価方法	期末試験と平常点により、総合的に評価します。				
テキスト	講義教材 (プリント) を配布します。				
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。				
留意事項	自分なりに考えながら講義を聴くことが大切です。				

こども環境科 2年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動		演習	2	通年	氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学校生活を過ごす。 クラス活動に主体的に参加し、リーダーシップをとる経験をする。 				
授業の概要	各種ガイダンス、クラス活動、学校祭を行う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	1年生を迎えよう	16		
	2	教務ガイダンス	17		
	3	就職ガイダンス	18		
	4	交流会	19		
	5	クラス活動	20		
	6	健康診断	21		
	7	ジョブカフェ	22		
	8	クラス活動	23		
	9	学校祭	24		
	10	学校祭	25		
	11	学校祭	26		
	12	学校祭	27		
	13	クラス活動	28		
	14	2年間の学校生活の振り返り	29		
15	社会人となるにあたって	30			
評価方法	平常の受講態度で評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献					
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
社会学	講義	2	後期	氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースに関心を持ち、概要や感想を他の受講生に伝えることができる。 ・自己を形成する要因であるジェンダー、人種について学び、人権感覚を高める。 ・社会調査について学び、データを取り分析する。 			
授業の概要	<p>自己からスタートし、ジェンダーについて理解を深め、ジェンダー・ステレオタイプに囚われない絵本を作り発表する。また、他の属性である民族、特にアイヌ民族について理解を深めるとともに、在日韓国・朝鮮人に対するヘイトスピーチの問題を考える。</p> <p>最後に、社会学の手法である社会調査について学び、グループでデータを取り、分析した結果を発表する。</p>			
授業計画	回	学習内容・テーマ		
	1	社会的に作られた自己		
	2	ジェンダーとは		
	3	ジェンダー形成		
	4	ジェンダー・ステレオタイプに囚われない絵本作り		
	5	ジェンダー・ステレオタイプに囚われない絵本作り		
	6	アイヌ民族		
	7	アイヌ民族		
	8	アイヌ民族		
	9	『アイヌモシリ』		
	10	民族差別		
	11	社会調査とは		
	12	社会調査準備		
	13	社会調査準備		
	14	社会調査発表		
15	まとめ			
評価方法	平常の受講態度、新聞・絵本発表、社会調査発表、小レポートにより評価する。			
テキスト	使用しない。			
参考文献	適宜紹介する。			
留意事項	グループで協力して課題に取り組むことが必要である。			

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
体育	演習	2	通年	赤神 正倫
授業の目標	<p>○様々なスポーツの特性や昔のあそびに触れ、心身の健康に資する効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、明るく健康な生活を送るための素地を養う。</p> <p>○様々なスポーツに触れ、ケガや障害の防止に対する理解を深める。</p>			
授業の概要	<p>○「運動のしぐみ」に対する理解を深め、様々なスポーツの基本的な技能・技術の習得に努め、スポーツの楽しさを味わう。</p> <p>○安全に十分配慮し、事故防止を踏まえた環境づくりを心がける。</p>			
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション	16	器械あそび (ストレッチ、平均台)
	2	陸上あそび (走、歩)	17	・実習
	3	・実習	18	・実習
	4	・実習	19	・実習
	5	・実習	20	ボールあそび (バスケット、バレー)
	6	器械あそび (ストレッチ、マット)	21	・実習
	7	ボールあそび	22	・実習
	8	・実習	23	・実習
	9	・実習	24	用具を使ったあそび (室内でできるスポーツ)
	10	陸上あそび (なわとび、リレーあそび)	25	・実習
	11	・実習	26	用具を使ったあそび (冬あそび)
	12	・実習	27	地域のスポーツ (スケート)
	13	ボールあそび (投げる、うける)	28	地域のスポーツ (スケート)
	14	・実習	29	地域のスポーツ (長靴アイスホッケー)
	15	・実習	30	地域のスポーツ (長靴アイスホッケー)
評価方法	出席状況および活動状況を総合的に評価する。			
テキスト				
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活		講義	2	前期	近藤 逸郎
授業の目標	◎生活科教育の目標や内容を理解するとともに、具体的な活動や体験を通して、小学校低学年児童及び幼・保・小の連携について理解を深める。 ○生活科教育の目指すもの ○幼・保・小の連携と子ども理解				
授業の概要	生活科教育が生まれた背景やその概要を学ぶとともに、小学校低学年における児童の姿をイメージしながら、ものづくり・栽培活動など具体的な体験活動を通して実践的な学びを提供したい。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション	16		
	2	生活科の実際 1 栽培活動①	17		
	3	生活科教育の目標と教育活動	18		
	4	生活科の実際 2 栽培活動②	19		
	5	生活科の実際 3 ものづくり①	20		
	6	生活科の実際 4 栽培活動③	21		
	7	生活科の実際 5 栽培活動④	22		
	8	幼・保・小の連携と課題	23		
	9	生活科の実際 6 ものづくり②	24		
	10	生活科の実際 7 自然観察・探検活動	25		
	11	自然観察・探検活動の発表資料作成①	26		
	12	自然観察・探検活動の発表資料作成②	27		
	13	自然観察・探検活動の発表	28		
	14	生活科の実際 8 ものづくり③	29		
15	学習のまとめと振り返り	30			
評価方法	出席状況、授業姿勢及び小レポートや振り返りシートなどの提出物を総合的に評価				
テキスト	授業内容に応じて、その都度資料を作成し配布				
参考文献	必要に応じて紹介				
留意事項	天候に左右される活動がありますので、授業内容の変更及び入れ替わりがあります。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法 (健康)		演習	2	後期	川嶋 厚子
授業の目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点、評価の考え方を理解するとともに、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。				
授業の概要	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育における「健康」—幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容			
	2	食事、排泄、着脱衣、清潔の基本的な生活習慣の形成を支える環境構成と援助			
	3	健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助 (特別な援助を要する子どもへの援助を含む)			
	4	健康指導、安全指導を中心とした保育の構想 (計画立案)			
	5	健康指導、安全指導を中心とした保育のための教材 (教材研究)			
	6	幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導 (模擬保育)			
	7	健康指導、安全指導の模擬保育の振り返り—保育の評価と改善			
	8	遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助			
	9	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 —気になる子、障害児、肥満児、家庭経験、性格特性等に応じた援助の在り方			
	10	運動遊びを中心とした保育の構想 (計画立案)			
	11	運動遊び指導の実際と教材 (教材研究)			
	12	幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導 (模擬保育)			
	13	運動指導の模擬保育の振り返り—保育の評価と改善			
	14	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力 —「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり			
15	幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む活動 (まとめ)				
評価方法	授業への取り組みに対する意欲や態度 (40%) 指導計画の立案、模擬保育の実践 (40%) 講義内容に関する筆記試験 (20%)				
テキスト					
参考文献	幼稚園教育要領解説、認定こども園教育・保育要領他				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法 (人間関係)		演習	2	前期	久納 里香
授業目標	将来保育者として豊かな保育を実践・展開するために、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、具体的な指導場面をイメージし、保育実践への意欲を高める。				
授業概要	領域「人間関係」のねらい、内容を踏まえた指導法の在り方を学習する。並行して子ども主体、非認知能力を育てる保育を行う視点を養い、総合的な保育が行なえるよう、実践的に学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	現代社会と幼児の人間関係			
	2	子どもの発達からみる 10 の姿を育てる保育実践			
	3	子どもの発達からみる 10 の姿を育てる保育実践			
	4	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者の関わり			
	5	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者の関わり			
	6	グループワーク			
	7	桜幼稚園保育演習 (乳幼児期の発達と自立心を育む援助～ICTを活用した実践)			
	8	桜幼稚園保育演習 (自他の気持ちの違いへの気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助)			
	9	グループワーク			
	10	ルールのある遊びの指導法			
	11	白樺幼稚園保育演習 (主体性のある保育実践)			
	12	白樺幼稚園保育演習 (協同的な遊びの援助)			
	13	グループワーク			
	14	人と関わる力が育つ保育実践			
15	まとめ～小学校との接続				
評価方法	受講態度、レポート、コミュニケーション能力を総合的に評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
留意事項					

※実務経験のある教員 (幼稚園教諭二級、保育士/認定こども園勤務)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の指導法 (表現)		演習	2	前期	横川 牧子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の表現の意義・目的を知り、総合的な表現活動を楽しめるようになる。 ・ わらべうたを通して身に付く「力」を知り、うたや遊びの中でねらいを意識できるようになる。 ・ 表現者としての「自分自身」を知り「自分らしい」表現方法に気づき、活動・実践に繋げることができるようになる。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現者として目的 (色々な対象、状況、場面を想定) に見合った姿勢や向き合い方、声の出し方や表情、仕草や動作を実践し、振り返りを行うことで工夫・研究するきっかけを作る。 ・ 生活や行事、自然に関係するうたや言葉などを計画的に学び活動する。尚、それに関わる小物・小道具をつくり、実践に結び付ける。 ・ 教科書や資料 (階名譜・リズム譜) の使い方を知り、自ら用いて活動できるきっかけとする。 ・ 実習・発表などの実践を通し、①計画・立案 ②報告・発表 ③評価する機会を持つ。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ		備考	
	1	乳幼児の発達からみる表現活動			
	2	保育所・幼稚園における表現活動の事例検討		DVD使用	
	3	ブラブラ人形を作る			
	4	ブラブラ人形を演じる			
	5	指人形を使った保育の展開		指遊び手遊びとの比較	
	6	領域「表現」からみたわらべうた遊び			
	7	わらべうた遊びの導入と終結			
	8	わらべうた遊び①「あんたがたどこさ」			
	9	わらべうた遊び②「なべなべ」			
	10	わらべうた遊び③「あぶくたった」			
	11	わらべうた遊びの指導案作成			
	12	模擬保育～わらべうた遊び		幼稚園実践見学	
	13	模擬保育～振り返り			
	14	表現活動から図画工作・音楽・体育へ		リズム運動・体育館	
	15	幼児の表現活動を育むために			
	期末試験 (グループ単位にて実技発表形式)		14講の後に行い15でまとめとする		
評価方法	出席状況、授業態度 (実技含む)、課題・レポート提出、実技発表の内容など総合的に評価する				
テキスト	わらべうたと子どもの育ち 木村はるみ著 エイデル研究所				
参考文献	適時 資料を作成し紹介する				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の状況をイメージし、何の目的で行っているかを意識し、振り返りつつ授業を進める。 ・ 制作に関わる道具、材料はその都度個別に用意する。 ・ 教室の設定は、机上と室内中央に空間を作り実践する形式をとる。 ・ リズム運動は運動場にて裸足、動きやすい服装で行う。(ピアノ使用～伴奏者に学生を複数募る) 				

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
教職概論	講義	2	後期	吉田 耕一郎
授業の目標	1. 保育者の役割と倫理について理解し、説明できる。 2. 教育の制度的な位置づけを理解し、説明できる。 3. 保育者の専門性について考察し、理解し、説明できる。			
授業の概要	保育の世界を目指してくれたあなたに、“保育者”になるために大切なことをお伝えします。まずは“保育者”とはどのような仕事をする人なのかをお伝えし、その後、保育の専門家としての“保育者”になるための様々なお話をしていきたいと思っています。			
回	学習内容・テーマ			
1	保育者に求められる資質			
2	保育者の1日を知る			
3	保育という仕事について考える1			
4	保育という仕事について考える2			
5	子どもの成長・発達を知る1			
6	子どもの成長・発達を知る2			
7	保護者との連携について1			
8	保護者との連携について2			
9	地域の中の保育について考える1			
10	地域の中の保育について考える2			
11	保育者集団について考える1			
12	保育者集団について考える2			
13	成長する保育者を目指す1			
14	成長する保育者を目指す2			
15	振り返りとまとめ			
評価方法	出席点、感想レポート			
テキスト	保育者論【第3版】福元・笠間・柏原編著 北大路書房			
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育社会学		講義	2	後期	氏原 陽子
授業の目標	現代の学校教育に関する社会的事項に対する基礎的な知識を身につけ、それらに関連する課題や教育政策を理解するとともに、学校と地域の連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。適宜、学習内容と関連させて、諸外国の教育事情や教育改革の動向を学ぶ。				
授業の概要	学校からスタートし、「問題」とされるいじめ、不登校を解説し、教育の社会的事項として、情報化社会、男女共同参画社会、子どもの貧困、グローバル社会、地域を扱う。学校安全への対応では、学校内外の事故の状況を概観し、防災センターを見学する。最後に、教師の社会的状況を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	学校とは	16		
	2	学校内外の子どもの安全	17		
	3	防災センター見学	18		
	4	いじめ	19		
	5	不登校	20		
	6	情報化社会と教育(1)	21		
	7	情報化社会と教育(2)	22		
	8	男女共同参画社会と教育(1)	23		
	9	男女共同参画社会と教育(2)	24		
	10	LGBTと教育	25		
	11	子どもの貧困と教育(1)	26		
	12	子どもの貧困と教育(2)	27		
	13	グローバル社会の中の学校	28		
	14	コミュニティスクール	29		
	15	教師の社会学	30		
評価方法	平常の受講態度、小レポート、期末レポートにより評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献	レジュメで紹介する。				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育心理学		講義	2	前期	福岡 真理子
授業の目標	1. 子どもの発達を理解し、保育現場での教育や保育の効果を高めるために発達心理学の知識をもとにより集団保育に注目した知識、技能を身に着ける。 2. 保育現場で起こりうる問題や課題に、現場に即した内容で心理学的知見を持てるようアクティブラーニングを体験しながら追及する。				
授業の概要	1. 子どもの育ちや学びを理解する 2. やる気を引き出しながら学ばせる教育方法を理解する 3. 子どもの能力や個性・特性の理解と評価方法を理解する 4. クラス運営における心理学的知見を持つ 5. 家庭への教育的支援や幼・保・小連携を学ぶ				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	ガイダンス：教育心理学とは	16	まとめと振り返り	
	2	1章 保育と教育心理学	17		
	3	2章 子どもの発達（1）	18		
	4	3章 子どもの発達（2）	19		
	5	4章 学習行動の基礎	20		
	6	5章 学びの動機付け	21		
	7	10章 保育の中で生かす教育心理学	22		
	8	8章 教育・保育における評価	23		
	9	13章 子どもをめぐる教育的問題	24		
	10	9章 発達障害のある子どもの教育・保育	25		
	11	6章 知的能力の発達	26		
	12	7章 パーソナリティーの発達	27		
	13	12章 家庭ぐるみの教育的支援	28		
	14	11章 就学に向けて（幼・保・小連携）	29		
15	試験	30			
評価方法	提出物30%（毎時間）、試験70%				
テキスト	保育に生かす教育心理学（株）みらい 『幼児教育と「子ども環境」』（明石書店）・・昨年も使用 「子どものイヤイヤ」（実務教育出版）・・昨年も使用				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
幼児教育課程総論		講義	2	前期	氏原 陽子
授業の目標	幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程、保育所、幼保連携型認定こども園において作成する全体的な計画の意義、編成・作成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。				
授業の概要	保育の基本からみた教育課程、全体的な計画の意義、教育課程にかかる法制度や編成・作成の方法を理解し、指導計画を作成、実践、振り返る。カリキュラム・マネジメントを行う意義を知り、教育評価の方法や教育課程、全体的な計画の改善例を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	教育課程、全体的な計画とカリキュラム			
	2	教育課程の編成方法、全体的な計画の作成方法			
	3	教育課程、全体的な計画にかかる法律等			
	4	保育所保育指針の改定の変遷と改定内容			
	5	指導計画の実際と作成、方法			
	6	指導計画の実践準備 (1)			
	7	指導計画の実践準備 (2)			
	8	指導計画の実践、振り返り (1)			
	9	指導計画の実践、振り返り (2)			
	10	戦前の保育内容			
	11	幼稚園教育要領の改訂の変遷と改訂内容			
	12	カリキュラム・マネジメント			
	13	教育評価、保育評価			
	14	幼児教育と小学校教育との円滑な接続			
15	まとめ・期末試験				
評価方法	小テスト 20%、指導計画の作成・実践・振り返り 20%、期末試験 60%				
テキスト	神長美津子他『乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論』光生館				
参考文献	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説				
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
地域福祉論	講義	2	後期	氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の意義を自分の言葉で説明することができる。 ・地域福祉・児童福祉の現状と課題を理解する。 ・地域に関心を持ち、福祉コミュニティを構想し発表する。 			
授業の概要	<p>児童福祉と関連させ地域福祉の意義・目的、現状と課題を解説するとともに、子ども食堂にボランティアとして福祉に参加する。最後は、地域住民として、福祉コミュニティを構想し、発表する。</p>			
授業計画	回	学習内容・テーマ		
	1	オリエンテーション		
	2	地域福祉の意義・目的		
	3	釧路市地域福祉計画		
	4	地域で見守る～民生委員		
	5	地域で育つ～おもちゃライブラリー		
	6	釧路市青少年育成センター		
	7	子ども食堂～事前学習		
	8	子ども食堂		
	9	子ども食堂		
	10	子ども食堂		
	11	子ども食堂		
	12	地域における障害者福祉の現状と課題		
	13	福祉コミュニティ構想		
	14	福祉コミュニティ構想		
15	まとめ			
評価方法	平常の受講態度、現場体験レポート、福祉コミュニティ発表を総合的に評価する。			
テキスト	使用しない			
参考文献				
留意事項	主体的な受講態度が求められる			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭支援論		講義	2	前期	氏原 陽子
授業の目標	1. 子育て家庭に対する保育士の相談等の支援の意義や役割、子ども家庭支援の基本について理解する。 2. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた支援と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
授業の概要	子ども家庭の多様なリアリティを通して子ども家庭支援が求められる背景からスタートし、保育士による子ども家庭支援の基本、子育て家庭に対する支援体制を学ぶ。最後に、事例をもとに多様な支援の展開と関係機関との連携を扱う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	子ども家庭支援が求められる背景 (1)			
	2	子ども家庭支援が求められる背景 (2)			
	3	家族の変化から見る女性の孤立と貧困			
	4	家族の養育機能			
	5	男女共同参画社会と家庭における平等			
	6	子ども家庭支援の目的と機能			
	7	子どもと家庭を支援するための制度			
	8	子どもと家庭を支援するためのサービス			
	9	子ども虐待と子ども家庭支援			
	10	保育所による子ども家庭支援			
	11	地域の子育て家庭への支援			
	12	地域の社会資源の活用と関係機関等との連携・協力			
	13	障害のある子どもの家庭支援			
	14	精神障害のある保護者と子どもの支援			
15	まとめ				
評価方法	平常の受講態度、小レポート、期末試験により総合的に評価する。				
テキスト	浅井春夫・所貞之『子ども家庭支援論：家族の多様性とジェンダーの理解』建帛社 全国保育士養成協議会『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2022』中央法規出版				
参考文献	保育所保育指針解説				
留意事項	子ども家庭福祉、子育て支援の学習事項と関連させながら学習すること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子ども家庭支援の心理学		講義	2	後期	伊藤 眞理
授業の目標	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得すること、家族・家庭の意義や機能を理解することで自らも生涯発達することを意識し、心理学を基礎とした子ども家庭支援を行う。				
授業の概要	生涯発達の過程からスタートし、家族・家庭の意義や機能、家族関係や親子関係、親としての育ち、親のライフコース、仕事と子育ての両立を支援する施策を解説する。 また、こどもの生育環境や子どもの精神保健についても考察する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	初期経験の重要性			
	2	乳児期から幼児期までの発達			
	3	学童期から青年期までの発達			
	4	成人期・老年期までの発達			
	5	家族・家庭の意義と機能			
	6	多様な家庭とその理解			
	7	家族関係・親子関係の理解			
	8	子育ての経験と親としての育ち			
	9	子育てを取り巻く社会的状況			
	10	ライフコースと仕事・子育て			
	11	仕事と子育ての両立を支援する施策			
	12	特別な配慮を要する家庭			
	13	子どもの生活・生育環境とその影響			
	14	子どものこころの健康に関わる問題			
	15	これまでの学びのまとめ			
16	試験				
評価方法	試験並びに、授業時に作成し提出するワークシート（毎回）、議論への参加を総合して評価する。				
テキスト	子ども家庭支援の心理学（児童育成協会）中央法規				
参考文献	子ども家庭支援の心理学 萌文書林 子ども家庭支援の心理学入門 ミネルヴァ書房 スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 萌文書院				
留意事項	授業中にディスカッションを行うことがあるので、積極的に参加すること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育方法学		演習	2	後期	武藤 篤訓
授業の目標	<p>一般目標①教育の方法論 教育の基礎的理論と実践を理解している。 ②教育の目的に即した指導技術を身につける。 ③情報機器を活用した効果的な授業や情報機器能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成。活用に関する基礎的な能力を身につける。 教育の方法と技術(情報機器及び教材の活用を含む)ではこれからの社会を担うこどもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技能を身につける。</p>				
授業の概要	<p>基礎として保育の基本と保育方法、幼児理解と方法、環境の構成と保育の展開、一人一人に応じた指導、保育の質の評価、遊びの指導などの基礎的事項を学習する。保育の方法や幼児理解、実際の子どもの生活や遊び、行事・幼保連携などを取り上げ、次に現在の幼児教育のキーワードや課題、生活、行事、小学校との連携、指導形態を取り上げ、最後に情報機器を使った教材の作成と活用について講義する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	保育の基本と保育方法		16	
	2	幼児理解とその方法		17	
	3	環境の構成と保育の展開		18	
	4	一人一人に応じた指導		19	
	5	保育の質と評価		20	
	6	遊びの指導		21	
	7	生活の指導		22	
	8	豊かな体験と園行事		23	
	9	小学校との連携		24	
	10	様々な指導形態		25	
	11	「主体的・対話的で深い学び」と教材研究		26	
	12	学び合い育ち合うクラスづくり		27	
	13	児童文化財と保育		28	
	14	情報機器を使った教材の作成と活用		29	
15	まとめと試験		30		
評価方法	課題 (60%) 定期試験 (40%)				
テキスト	光生館「保育方法論」				
参考文献	その都度紹介します				
留意事項	常に実際の保育のイメージを持ちながら受講してください。 課題は確実に提出してください。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教育相談・育児相談		演習	2	後期	田仲 京子
授業の目標	「子育て支援」の発展科目として、教育相談・育児相談を模擬体験し、現場で実践する基礎を養う。				
授業の概要	子どもの特徴やニーズと発達理解のための理論と方法を学習する。教育相談の理論・技法の学習では体験を重視し、体験したことを振り返ることで個々の学生が自らのコミュニケーションの特徴に気づき、教育相談に生かせることを目指す。また、保育・教育現場で生じやすい事例について、ロールプレイやディスカッションを用いて学習する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	現代社会と子育て、子育て			
	2	「親」になること			
	3	支援としての保育・教育相談			
	4	相談支援の場と環境システム			
	5	相談支援の基盤としての保育と保護者の関係			
	6	信頼関係を基盤とした支援のために			
	7	相談支援の基礎			
	8	相談支援の基本技法としてのカウンセリング			
	9	保育における相談支援			
	10	保護者理解			
	11	地域子育て支援における相談支援			
	12	0・1・2歳児の相談と支援の実際			
	13	3・4・5歳児の相談と支援の実際			
	14	特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援			
15	まとめ				
評価方法	レポート、提出物、授業への取り組み状況などを総合的に評価します。				
テキスト	大田光弘著「保育・教育相談支援」建帛社				
参考文献	必要に応じて提示する。				
留意事項					

※実務経験のある教員（幼稚園教諭、保育士、社会福祉主事、介護福祉士／保育園勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子どもの健康と安全		演習	1	前期	長谷 由香
授業の目標	1. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える 2. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ 3. 災害時・救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ 4. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する				
授業の概要	保育のおかれている現状に興味・関心を寄せ、広い視野でこどもの健康な発育・発達について理解を深めていってほしいと思います。講義・演習では、保育の現場で起こりうる、具体的な状況設定を行い、具体的な対処法を学び、知識に裏付けて身につけることを目指します。 また、社会の現状を理解することに興味・関心を持って学び、保育現場でリーダーシップを発揮するため、多職種連携のチームの一員として役割を発揮できるよう、保育の専門職としての自覚を育てることを目指して授業を展開します。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション。保健活動の意義と目的			
	2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助1：子どもの生活習慣、援助技術			
	3	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助2（沐浴演習）			
	4	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助3：乳児への対応			
	5	保育における健康安全管理の実際1：事故の特徴や安全管理			
	6	保育における健康安全管理の実際2：食事時の安全管理			
	7	保育における健康安全管理の実際3：災害の備えと危機管理			
	8	子どもの体調不良等に対する適切な対応1：一般的な症状への対応			
	9	子どもの体調不良等に対する適切な対応2：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応			
	10	子どもの体調不良等に対する適切な対応3：子どもへの看護と救急処置			
	11	子どもの体調不良等に対する適切な対応4：救急蘇生法（演習）			
	12	感染症の予防と対策			
	13	障害を持つ子どもへの適切な対応			
	14	心とからだの健康づくりと地域保健活動			
15	まとめ・レポート課題の説明				
評価方法	レポート課題（50%）、講義後振り返りレポート（25%）、演習・グループワークへの参加状況（25%）				
テキスト	「子どもの保健ハンドブック（萌文書林）」				
参考文献					
留意事項	実習時期に合わせ、講義内容を入れ替えることがあります。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
乳児保育Ⅱ		演習	1	前期	三宅 博子
授業の目標	○3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関りの基本的な考え方にに基づき、より具体的な乳児保育の実際(生活・遊び)を理解し、学び、保育所等における乳児を観察する目を養う。				
授業の概要	<p>○3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関りの基本的な考え方(保育者との応答的な関り・信頼関係の構築等)を十分に理解して、具体的な方法を学び深める。</p> <p>1. 乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を知る。</p> <p>2. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図る為の乳児保育における関り(援助・配慮)の実際を学ぶ。</p> <p>3. 乳児保育における長期的・短期的な指導計画、個別的・集団の指導計画等の実際を学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)や家庭的保育における乳児保育の現状と課題			
	2	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育の現状と課題			
	3	3歳以上児の保育に移行する時期の保育			
	4	乳児保育の基本～子どもと保育士等との関係の重要性・個々に応じた受容的・応答的関り			
	5	〃 ～子どもの主体性の尊重と自己の育ち・子どもの体験と学びの芽生え			
	6	乳児保育・園生活の一日(生活の流れと保育の環境)			
	7	0歳児クラス(生活の流れ 保育環境 援助の実際)			
	8	1歳児クラス(生活の流れ 保育環境 援助の実際)			
	9	2歳児クラス(生活の流れ 保育環境 援助の実際)			
	10	乳児保育の内容と方法・具体的なあそびや手づくりおもちゃ等の体験			
	11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮			
	12	集団での生活における配慮や環境の変化や移行に対する配慮			
	13	長期的な指導計画と短期的な指導計画の実際			
	14	個別的な指導計画と集団の指導計画の実際			
	15	職員間の連携と協働、保育者の重要な専門性			
	16	期末試験			
評価方法	平常の受講態度・期末試験により総合的に評価する				
テキスト	中央法規「新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ」監修 公益財団法人 児童育成協会				
参考文献	エイデル研究所「乳児保育」一人ひとりが大切に育てられるために 吉本和子 福音館書店「子どもへのまなざし」児童精神科医 佐々木正美				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
子育て支援		演習	2	前期	田仲 京子
授業の目標	1. 子育て家庭に対して、保育士の行う相談などの支援の展開について具体的に理解する。 2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する。				
授業の概要	子育て支援について、その基本となる理論と方法及び心構えを学ぶ。また、子どもや支援を必要とする過程を理解するために必要な技術を学ぶ。 相談事例の検討を通して、実践的に学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	子どもの保育とともにを行う保護者の支援			
	2	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成			
	3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解			
	4	子ども及び保護者の状況・状態の把握			
	5	支援の計画と環境の構成			
	6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
	7	職員間の連携・協働			
	8	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
	9	保育所等における支援			
	10	地域の子育て家庭に対する支援			
	11	障害のある子ども及び家庭に対する支援			
	12	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援			
	13	子ども虐待の予防と対応			
	14	要保護児童等の過程に対する支援			
15	多様なニーズを抱える子育て支援家庭の理解。まとめ				
評価方法	レポート、提出物、授業への取り組み状況などを総合的に評価します。				
テキスト	「子育て支援」 中央法規				
参考文献	必要に応じて提示する				
留意事項					

※実務経験のある教員（幼稚園教諭、保育士、社会福祉主事、介護福祉士／保育園勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会的養護Ⅱ		演習	1	後期	豊島 節子
授業の目標	<p>「社会的養護Ⅰ」で学習した社会的養護の理念や制度を踏まえ、社会的養護方法(実践)など基本的な内容について理解し、さらに事例などの演習によって理解を深めていく。子どもが権利の主体者であることを踏まえ、家庭への養育支援から代替養育までの社会的養護の充実、さらに家庭養育優先の理念とそのためのパーマネンシー保障や里親による養育の推進など、改正児童福祉法(2016年)の理念の具体化となる方策についても理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストによる事例や実際の支援計画などを参考にしながら、演習によってさらに社会的養護の理解を深めていく。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 子どもの権利擁護			
	2	社会的養護における子どもの理解			
	3	社会的養護の内容① 日常生活支援			
	4	" ② 心理的支援			
	5	" ③ 自立支援			
	6	施設養護の生活特性および実際①			
	7	" ②			
	8	家庭養護の生活特性および実際			
	9	アセスメントと個別支援計画の作成			
	10	記録および自己評価(ケースカンファレンス)			
	11	社会的養護における保育の専門性			
	12	社会的養護にかかわる相談援助			
	13	社会的養護におけるソーシャルワーク			
	14	社会的養護における家庭支援			
15	今後の社会的養護の課題と展望				
評価方法	受講態度・姿勢、レポート等総合的に評価				
テキスト	中央法規 基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の理解と方法 I		演習	2	前期	川崎 晶子
授業の目標	1. 音楽の知識や歌唱・楽器演奏の能力を一層伸ばし、保育現場で活用できる技術を身につけて、子どもの生活と遊びを豊かにすることを学ぶ。 2. 音楽の楽しさを自らが実感すると共に、子どもの心身の発達に応じた音楽表現活動を学ぶ。				
授業の概要	1. 表現活動を通じて子どもの表現力を伸ばし、子どもの発達にふさわしい表現活動を実践出来る。 2. 身近な素材を使ったアンサンブルや手作り楽器を用いた遊びを工夫し、音楽的感性を養う。 3. 授業で学んだことを生かし、実習に向けての準備を進める。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 保育音楽表現ねらい			
	2	音楽基礎知識の学習			
	3	歌唱活動 季節の歌			
	4	音楽表現遊び (手遊び、歌遊び)			
	5	歌唱活動 行事の歌			
	6	言葉とリズム			
	7	リトミックとは リトミック活動			
	8	表現遊びの指導計画			
	9	歌唱活動 生活の歌			
	10	手作り楽器			
	11	手作り楽器			
	12	コード奏法			
	13	コード奏法と簡易伴奏			
	14	年齢に合わせた音楽遊び			
15	まとめ・試験				
評価方法	学習内容の理解、授業への取り組み及び出席状況・受講態度等により総合的に評価する。				
テキスト	幼稚園教諭・保育士養成課程「子どものための音楽表現技術」 —感性と実践力豊かな保育者へ—株式会社萌文書林 こどものうた 200 チャイルド本社				
参考文献	必要に応じて紹介する。				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育内容の理解と方法Ⅱ		演習	2	前期	福士 隆敏
授業の目標	<p>図画工作で紹介できなかった、いろいろな造形表現を紹介し、各画材についての理解を深めます。また大勢の子どもと一緒に楽しめる造形活動やおもちゃ制作の体験、共同制作の持つ意味や楽しさに触れ、実施する際のさまざまな留意点について学びます。</p> <p>描画の発達段階についての理解を深め、こどもの絵の特徴とその見方、そしてその指導のあり方について理解を深めます。</p>				
授業の概要	<p>共同制作や造形遊びなど様々な造形活動を通して、その楽しさとこどもの関わりを考えます。また、課題作品の制作を通して自己の表現について深めるとともに、展示し鑑賞してもらうための仕上げや装丁についても考えます。完成した課題作品の提出をもって、前期の評価とします。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	ガイダンス (授業の流れや用具の確認)	16		
	2	モダンテクニック 1	17		
	3	モダンテクニック 2	18		
	4	造形活動 1	19		
	5	造形活動 2	20		
	6	造形活動 3	21		
	7	造形活動 4	22		
	8	共同制作 1	23		
	9	共同制作 2	24		
	10	共同制作 3	25		
	11	共同制作 4	26		
	12	工作技術 1	27		
	13	工作技術 2	28		
	14	工作技術 3	29		
15	作品提出とまとめ	30			
評価方法	出席状況・提出された小作品・課題作品・受講態度で総合的に評価します。				
テキスト	必要な場合、その都度プリント等を配布します。				
参考文献					
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れてもいい服装で、必要な道具を持参して受講してください。 ・小作品やプリントをファイルやスケッチブックに綴じてもらいます。 ・内容や順番が変更になる場合もあります。 				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
器楽演奏法Ⅱ		演習	2	通年	浅利 美穂 木下 太陽 川崎 晶子
授業目標	前年度学んだピアノの演奏技術をさらに発展させながら、弾き歌いを修得し、より高度な音楽表現技術の定着を目標とする。				
授業概要	『大学ピアノ教本』及び『こどものうた 200』を中心に、各自のレベルに応じたピアノ曲の演奏にも取り組む。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	担当教員ごとにクラスに分かれ、各自の段階・能力に応じたレッスンをを行う。	16	弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ曲も積極的に学ぶ。	
	2	〃	17	〃	
	3	〃	18	〃	
	4	〃	19	〃	
	5	〃	20	〃	
	6	〃	21	〃	
	7	〃	22	〃	
	8	〃	23	〃	
	9	〃	24	〃	
	10	〃	25	〃	
	11	〃	26	〃	
	12	〃	27	〃	
	13	〃	28	〃	
	14	〃	29	〃	
	15	レッスン及び発表	30	レッスン及び発表	
評価方法	実技試験、出席状況、課題へ取り組む姿勢を総合して評価する。				
テキスト	『大学ピアノ教本』(教育芸術社)、『こどものうた 2000』(チャイルド本社)				
参考文献					
留意事項	ピアノを弾く上で支障が出ないように、爪を短く切る。レッスン時には上靴を必ず着用する。毎日少しずつでも良いので練習に取り組むこと。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
児童文化論		講義	2	後期	森田 有紀子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの豊かな感性と想像する楽しさを広げるために有効な児童文化財について学び、実践に生かすことができる。 ・子どもが児童文化に親しむ環境を構築するための知識や技能を身につけ、保育構想に繋ぐことができる。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話や童話、様々な種類の絵本など多くの児童文学に関する知識を深め、子どもが絵本や物語に親しめるように保育生活の中で身近に活用するための方法を考える。 ・昔から受け継がれる子どもの文化に触れ、実際に体験することで、子どもの文化をより豊かにするための技術を学ぶ。 				
授業計画		学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション：児童文化とは	16	期末試験	
	2	子どもの環境の変化と児童文化	17		
	3	子どもの遊びと生活（伝承遊びや伝統行事）	18		
	4	子どもの遊び	19		
	5	日本と世界の昔話	20		
	6	絵本・幼年童話・児童文学	21		
	7	絵本のテーマ	22		
	8	絵本の作者	23		
	9	シアターとは	24		
	10	お話を演じる児童文化財①	25		
	11	お話を演じる児童文化財②	26		
	12	お話を演じる児童文化財③	27		
	13	絵本から発展する遊びや製作①	28		
	14	絵本から発展する遊びや製作②	29		
	15	絵本から発展する遊びや製作③	30		
評価方法	受講態度、模擬保育、レポート、期末試験を総合的に判断				
テキスト	必要に応じてプリントを配布				
参考文献					
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
幼稚園教育実習	実習	5	通年	赤神 正倫・氏原 陽子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、幼保連携型認定こども園における幼稚園教育実習に向けて準備し、見学実習・参加実習・責任実習をすることができる。 ・幼稚園教育実習を振り返り、自己の課題を明確にする。 			
授業の概要	<p>幼稚園、幼保連携型認定こども園を学ぶことから始め、対象となる子どもの発達を復習しながら実習のポイントを解説する。部分実習に向けて、廃材を使った製作遊びの教材研究から指導案作成、模擬保育を行う。実習生に期待することや実習要綱を学び、実習への不安を共有する。実習は見学実習・参加実習・責任実習の流れで行う。実習後、振り返りを行い、幼稚園の多様性を学ぶとともに、1年生に向けて報告会で実習の成果を発表する。</p>			
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	幼稚園とは	16	幼稚園の多様性
	2	幼保連携型認定こども園とは	17	幼稚園教育実習報告会①
	3	3歳児の発達と実習のポイント	18	幼稚園教育実習報告会②
	4	4歳児の発達と実習のポイント		
	5	5歳児の発達と実習のポイント	実	幼稚園の1日の生活の流れ
	6	実習する幼稚園について知る	実	幼稚園の教育方針、保育の特色
	7	日誌の書き方	実	子どもの発達と遊び
	8	廃材を使った製作遊び①教材研究	実	子ども理解
	9	廃材を使った製作遊び②指導案作成	実	幼稚園教諭の仕事
	10	模擬保育①	実	実習日誌～記録の取り方
	11	模擬保育②	実	指導計画の作成～部分、全日
	12	実習生に期待すること～園長講話	実	指導計画の実践・振り返り
	13	実習課題の設定、実習要綱		
	14	実習への不安、直前準備		
15	幼稚園教育実習の振り返り			
評価方法	実習園の評価と学校の評価を加味して評価する。			
テキスト	小堰智子他『幼稚園・保育所・認定こども園パーフェクトガイド』わかば社			
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社			
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
教職実践演習 (幼稚園)		演習	2	後期	氏原 陽子 武藤 篤訓 森田 有紀子
授業の目標	教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外のような活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認するとともに、保育実践力を養う。				
授業の概要	教職実践演習の位置づけから出発し、環境を通して学ぶ幼児教育の基本を学び、幼稚園見学を通して、学級経営や保育技術を観察する。また、幼稚園と小学校の接続についても学び、小学校の授業を見学する。並行して、現場の教員から教職の使命感、責任感、教育的愛情等を話していただくとともに、幼児に見てもらおう成果発表を準備し、発表する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	教職実践演習とは	16	発表準備	
	2	履修カルテの作成	17	幼稚園見学③	
	3	環境を通して学ぶとは①	18	幼稚園見学④	
	4	環境を通して学ぶとは②	19	発表準備	
	5	幼児理解	20	発表会案内の作成	
	6	幼児理解	21	幼稚園と小学校の接続①接続の必要性	
	7	題材探し	22	幼稚園と小学校の接続②小学校見学	
	8	題材探し	23	リハーサル	
	9	発表準備	24	リハーサル	
	10	発表準備	25	発表準備	
	11	発表準備	26	発表準備	
	12	教職としての愛情、使命感	27	成果発表	
	13	幼稚園見学①	28	成果発表	
	14	幼稚園見学②	29	振り返り	
15	発表準備	30	履修カルテの作成		
評価方法	平常の受講態度、小レポート、成果発表により総合的に評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考文献	幼稚園教育要領解説				
留意事項					

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	2	前期	赤神正倫・氏原陽子・川崎晶子 福士隆敏・武藤篤訓・森田有紀子
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習ⅠAの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。 			
授業の概要	<p>保育者の職務を観察、模倣することを通して、保育所の役割や機能について理解を深め、日誌やエピソード記述を通して、子どもの観察や関わりの視点を明確にし、保育を理解する。養護と教育を一体的に行う保育、送迎後の保護者と保育者との様子を観察し、子育て支援について理解する。部分実習・責任実習を通じて、指導計画の作成・実践・観察・記録・評価を行う。最後に、実習を振り返り、自己の課題を明確化する。</p>			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 観察に基づく保育の理解 ・ 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 ・ 保育士の業務と職業倫理 ・ 自己の課題の明確化 			
評価方法	実習施設の評価60%、学校の評価40%			
テキスト				
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実習指導Ⅱ又はⅢ		演習	1	前期	三宅 博子
授業の目標	<p>○保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的にかつ積極的に理解する。</p> <p>○実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</p> <p>○保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</p> <p>○保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>○実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する自己課題を明確にする。</p>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価・課題を明確にもち学ぶ。 ・6月の保育園本実習に向けて日誌・エピソード記録・指導案の作成等を具体的に実践的に学ぶ。 ・保育実習に向けて模擬指導等を体験し、簡単な玩具やグッズ作りを積極的に実践し合う。 ・実習後、事後指導として、実習の総括・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化。 				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	保育所の役割や機能等を具体的に理解			
	2	保育要領を学び、具体的な保育内容を知る			
	3	保育実習Ⅱに向けての自己課題等を考察			
	4	実習日誌・エピソード記録について			
	5	指導案の作成について具体的に学ぶ			
	6	未満児・以上児の特徴を踏まえ指導案作成			
	7	模擬指導案の作成準備(1)玩具作り紹介			
	8	模擬指導案の作成準備(2)玩具作り紹介			
	9	各グループによる模擬指導案の発表(1)			
	10	各グループによる模擬指導案の発表(2)			
	11	実習への心構え(保育士の職業倫理等)			
	12	実習の振り返りと自己課題の考察(1)			
	13	実習の振り返りと自己課題の考察(2)			
	14	保育実習Ⅱの実習報告会(1)			
15	保育実習Ⅱの実習報告会(2)				
評価方法	日頃の受講態度、各提出物(模擬保育指導案・報告書等)、実習園評価を踏まえ総合的に評価				
テキスト	小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社				
参考文献	<p>○基本保育シリーズ⑩保育実習 中央法規</p> <p>○保育所保育指針(平成30年版)</p> <p>○教育・保育要領解説(平成30年版)</p> <p>○「子どもへのまなざし」佐々木正美 福音館書店</p>				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
保育実践演習		演習	2	通年	赤神正倫・氏原陽子・川崎晶子 福土隆敏・武藤篤訓・森田有紀子
授業の目標	<p>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が修得、形成されたか自らの学びを振り返り確認する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められていることは何か考察する。</p>				
授業の概要	<p>少人数のゼミ単位で活動する。</p> <p>1. 学びの振り返り</p> <p>2. 保育に関する現代的課題の分析に基づく探求</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	ゼミとは、学習課題		16	後期に向けての課題設定
	2	ゼミ課題の設定・進め方等		17	課題検討
	3	課題検討		18	課題検討
	4	課題検討		19	課題検討
	5	課題検討		20	課題検討
	6	課題検討		21	課題検討
	7	課題検討		22	課題検討
	8	課題検討		23	課題検討
	9	課題検討		24	課題検討
	10	課題検討		25	課題検討
	11	課題検討		26	課題検討
	12	課題検討		27	課題成果発表準備
	13	課題検討		28	課題成果発表準備
	14	課題検討		29	課題成果発表
15	前期の学びの振り返り		30	課題成果発表	
評価方法	平常の受講態度、課題成果発表等により評価する。				
テキスト					
参考文献					
留意事項					